

## VALQUA Group

お問い合わせ先：株式会社バルカー  
総務部 TEL 03-5434-7370 FAX 03-5436-0560  
〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階  
<https://www.valqua.co.jp>



# VALQUA Group Sustainability Report 2023



## Value & Quality

### 表紙について

バルカーグループは、安全・安心・豊かさを顧客に提供するための事業や、ボールルームダンス支援などのサステナビリティ活動を通じて、全ての子どもたちが活躍できる安全で安心な「明るい未来づくり」に貢献したいという思いから、子どもたちの写真を表紙に使用しています。  
バルカーグループの従業員から公募した写真（従業員の子どもや孫）で表紙を飾りました。

## サステナビリティレポート 2023について

2023年から、従来のサステナビリティレポートと会社案内を統合し、新たなサステナビリティレポートとして発行しました。

### 【編集方針】

本レポートは、バルカーグループのサステナビリティに関する基本的な考えと、サステナビリティ重要課題に沿った取り組みをステークホルダーの皆さまにお伝えするため、年1回発行しています。

2023年から、従来のサステナビリティレポートと会社案内を統合し、非財務情報を中心に、情報を拡充し発行しています。また、「ダイジェスト版」を冊子で発行し、フルバージョンは、ホームページ上で公開することで紙資源の削減に努めています。

なお、一部サステナビリティ情報は、サステナビリティレポートを補完するため、Webサイトのみで開示しています。

### 【発行年月】

2023年6月発行(前回2022年6月)

### 【報告対象期間】

2022年4月1日～2023年3月31日

報告の一部に上記対象期間前後の内容を含みます。

なお、体制図、方針などは、2023年4月現在のものです。

### 【発行責任部署および連絡先】

株式会社バルカー 総務部 総務グループ 総務企画チーム

E-mail csr@valqua.com

### 【報告対象範囲】

株式会社バルカーおよびその連結子会社15社

(障がい者雇用率、女性管理職比率はバルカー単体の数値としています。)

### 【参考にしたガイドライン等】

GRIスタンダード、ISO26000、国連グローバル・コンパクト、

SDGs(持続可能な開発目標)、RBA行動規範

### 【報告媒体】

PDF版	重点的なサステナビリティに関する取り組みを年次レポートとしてまとめています。 <a href="https://www.valqua.co.jp/social/report/">https://www.valqua.co.jp/social/report/</a>
Web版	Webサイトには最新情報・追加情報を網羅的に掲載し、随時更新しています。 <a href="https://www.valqua.co.jp/social/">https://www.valqua.co.jp/social/</a>

編集方針	2
目次	3
企業理念	4
バルカーの歩み	5
トップメッセージ	6
<b>特集1 CX推進</b>	8
進化し続けるライニングタンクサービス事業 ～ライニング製造のパイオニアとしての誇り～	
<b>特集2 人材育成</b>	10
自分らしく、 前例のないことに挑戦する女性管理職	
バルカーグループの事業概要	12
バルカーと社会との関わり	14
SDGsの考え方および方針	16
サステナビリティ マネジメント	17
サステナビリティ重要課題	18
サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)の特定	20

## バルカーグループ 2022年度 サステナビリティ活動

### ▼ コーポレート・ガバナンス

01. 企業理念の浸透	22
02. コーポレート・ガバナンスの強化	23
03. グループグローバルな活動の推進	24
04. ステークホルダーとの対話	24

### ▼ コンプライアンス

05. 汚職・贈収賄の防止	25
06. 法令等の遵守	26
07. 環境関連法令等の遵守	27

### ▼ 環境

08. 環境負荷物質の漏出防止と低減	28
09. 事業上の環境負荷物質の低減	29

### ▼ 安全衛生

10. 労働安全衛生	31
------------	----

### ▼ サプライチェーンマネジメント

11. 紛争鉱物等への対応	32
---------------	----

### ▼ 人材・人権

12. 人材の多様性確保	33
13. 人権の尊重(人権デューデリジェンス含む)	34
14. 人材育成	34

### ▼ 顧客満足

15. 品質の向上と顧客の安全・安心	35
--------------------	----

### ▼ コミュニティ

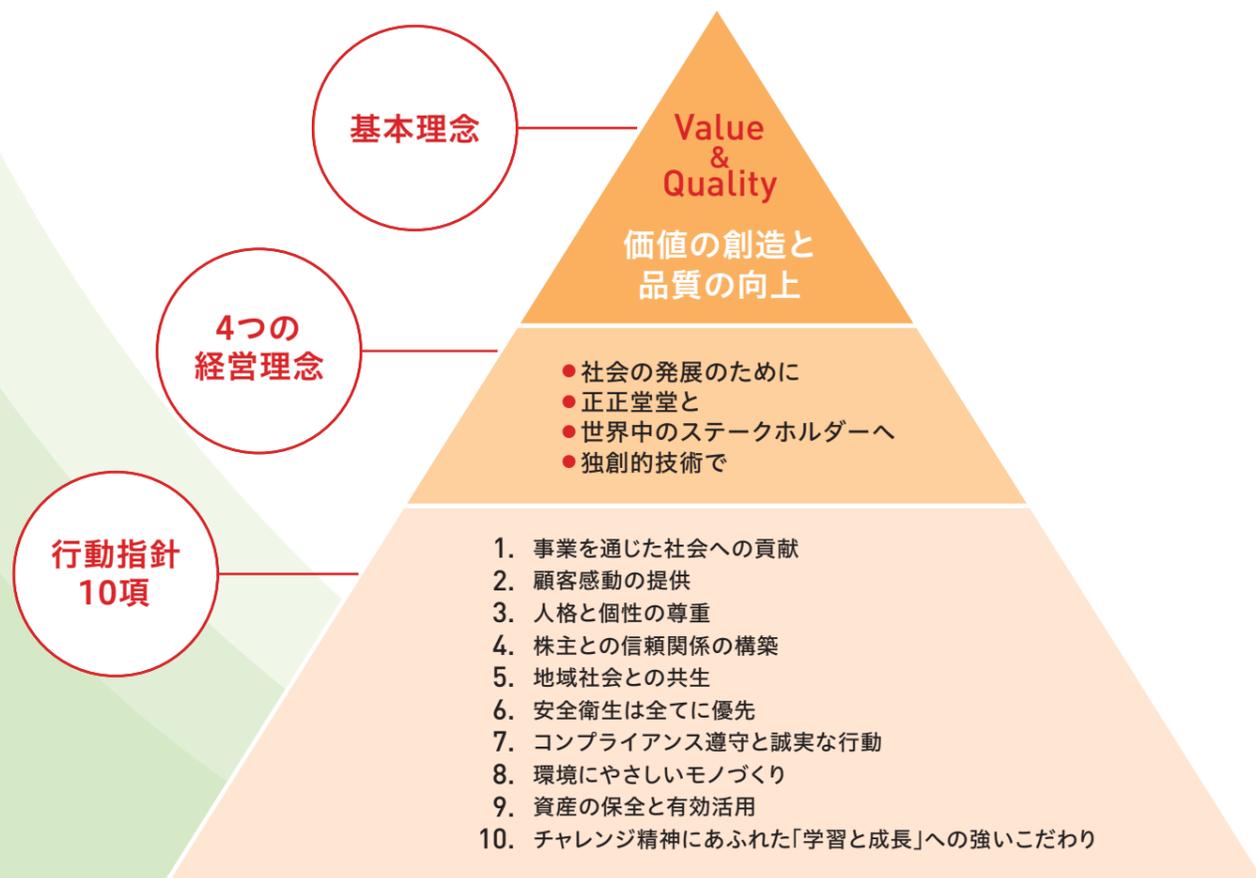
16. スポーツ・文化・芸術の振興 地域社会との共生	36
-------------------------------	----

バルカーネットワーク	38
------------	----

企業理念

# THE VALQUA WAY

バルカーグループの企業理念「THE VALQUA WAY」は、社名の由来であり基本理念でもある「Value & Quality」、それをさらに従業員が理解し実践しやすくした「4つの経営理念」、そして「行動指針10項」で構成されています。この深い理解と実践こそが、バルカーグループのサステナビリティの根幹となっています。バルカーグループは、これからも、人類の豊かさと地球環境に貢献するために「価値の創造と品質の向上」を追求し続けてまいります。



## バルカーの歩み

<b>1927</b> 1月	自動車および高速機械用ブレーキライニングの製造・販売を目的として、大阪府に日本ブレーキライニング製作所を創立	<b>2000</b> 3月	台湾バルカー国際股份有限公司を設立
<b>1932</b> 4月	日本バルカー工業株式会社を設立。工業用パッキンの生産を開始	<b>2000</b> 12月	バルカーシール(上海)有限公司を設立
<b>1941</b> 6月	航空機用合成ゴムパッキン、ジョイントシートの製造を開始	<b>2002</b> 9月	バルカー(上海)貿易有限公司を設立
<b>1952</b> 2月	ふっ素樹脂の加工技術研究が完了、日本で最初の製品化。商品名を「バルフロン」として製造・販売を開始	<b>2004</b> 3月	VALQUA KOREA CO., LTD.を設立
<b>1969</b> 7月	合併会社、台湾バルカー工業股份有限公司を設立	<b>2006</b> 1月	M・R・Tセンターを開設(東京都町田市)
<b>1975</b> 9月	東京証券取引所、市場第一部に株式上場	<b>2008</b> 4月	VALQUA VIETNAM CO., LTD.を設立
<b>1988</b> 7月	合併会社、VALQUA INDUSTRIES (THAILAND), LTD.を設立	<b>2010</b> 9月	ダイキン工業株式会社との事業・資本提携による中国業務拡充スタート
<b>1993</b> 11月	奈良工場を新設。高性能ゴム製品の製造を開始	<b>2011</b> 12月	現・株式会社バルカー・エフエフティを買収し、連結子会社化
<b>1995</b> 8月	上海バルカーふっ素樹脂製品有限公司を設立	<b>2017</b> 3月	現・バルカーNGCを買収し、連結子会社化
<b>1998</b> 6月	VALQUA AMERICA, INC.を設立	<b>2017</b> 11月	VALQUA INDUSTRIES SINGAPORE PTE. LTD.を設立
		<b>2018</b> 10月	商号を株式会社バルカーへ変更
		<b>2022</b> 4月	東京証券取引所、市場第一部からプライム市場へ移行

## THE HISTORY OF VALQUA

## Top Message

# 「人類の豊かさと地球環境」に 貢献するため、 さらなる改革と挑戦を続けます



瀧澤 利一 / 代表取締役会長 CEO

本坊 吉博 / 代表取締役社長 COO

## 中期経営計画 (NF2023) の基本方針 (New Frontier 2023)

激変する世界情勢の中、「THE VALQUA WAY」のもと顧客の信頼に応え、H & Sの両輪で新たな価値を創造し続ける企業を目指そう

1. 大胆な M&A や業務提携の加速による新素材・新市場・新事業への参入
2. 地政学リスクの増大に対応したサプライチェーン改革の断行
3. 継続的な顧客価値を生み出す AI/IT ソリューションの事業確立
4. 新たなビジネス領域へ展開するための研究開発と人材育成の加速
5. 既存事業をより強化するための設備投資の増強と販売チャネルの拡充

## 「大胆なCX」へのチャレンジ

世界各地で地震や異常気象による自然災害、地政学的な緊張の高まりに伴う人々の分断などが、市場環境の複雑さや経済の不安定化と相まって、世界中に大きな不安や影響をもたらしています。

当社グループを取り巻く事業環境においても、資源・エネルギー価格の高騰、原材料の調達難により、今まで確立してきたサプライチェーンそのものが大きなダメージを受けました。

バルカーグループは、このような厳しい事業環境の中でも、2027年の創業100周年のありたい企業像「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を達成するため「環境・社会・企業統治」への取り組みを強化すべく、2021年を【CX※1元年】としてCXを進めた結果、創業95年の歴史において最高収益の業績を残すことができました。

これは偏に、従業員一人一人に、企業理念の「THE VALQUA WAY」が浸透し、変化の激しい環境においても、未来を見据え、自ら考えチャレンジを行った証だと感じています。

いくつか例を挙げますと、環境面では、「気候関連財務情報開示タスクフォース」(TCFD)の提言に沿った活動に取り組むとともに、国内外の工場での再生可能エネルギーによるCO<sub>2</sub>削減の取り組みの他、水素エネルギー実用化に向けた製品や、シリコンウエハーのリサイクル事業など、環境配慮

製品の積極的な提供を行っています。

社会・企業統治面では、今後の情報化社会のさらなる加速に備えるため、販売ネットワークの見直しと合理化、また、増産への対応として、台湾にて、工場移転や生産体制を強化しました。

また、その他、R&D※2組織を抜本的に見直し、各事業本部にM&D※3機能を付加することにより、迅速且つ、お客さま視点の製品開発を行うための体制構築を図りました。

今進行中の世界的なインフレ傾向から、日本においても、エネルギー・食料等あらゆる物価の高騰は避けられず、消費財市場の低迷により、半導体の需要も減速する見込みで、当社グループの事業環境もさらに厳しくなるものと予想しています。

こういう時代にあっても、これまで鍛えてきたバルカーグループのビジョナリー経営の真価を発揮し、また、2023年度を中期経営計画“New Frontier 2023”(NF2023)の最終年度に相応しい年とするため、あらゆる変化やリスクに、柔軟且つ、スピーディーに対応することを意識し、H&S※4を基軸に、「選択と集中」によるM&A、重大リスクへの対応強化、サプライチェーンの再構築、AI/ITの活用強化、次世代を担う人材育成の強化などを着実に実行してまいります。

※1 CX:コーポレートトランスフォーメーションの略。

※2 R&D:研究開発の略。

※3 M&D:マーケティング&開発の略。

※4 H&S:付加価値の高いH(ハード=製品)、顧客視点に立ったS(サービス)を付加し、顧客価値の最大化に向けたソリューションを提供する。

## サステナビリティの推進強化

2022年4月、東京証券取引所「プライム市場」への移行に伴い、「コーポレートガバナンス・コード」の改訂に対応するため、ガバナンスの一層の充実やサステナビリティ活動の強化を図るべく、「CSR推進委員会」から「サステナビリティ委員会」へと体制を変更しました。また、NF2023の経営戦略と事業計画の関連性をより重視したサステナビリティ重要課題への見直しを行い、「人権デューデリジェンス」への対応を加えるなど、人権に対する取り組みを強化しました。

バルカーグループは、従来から「人材」が最も重要な財産であると考え、「バルカーグループ人権基本方針」を制定していますが、今後、より一層、国籍・性別・年齢を問わず、多様な人材が活躍できる環境づくりを強化してまいります。

また、本レポートについても、当社グループのサステナビリティ関連情報を中心に、より包括的で適切な情報開示を目指し、2023年1月「サステナビリティレポート編集委員会」を発足させました。

バルカーグループは、これからも「THE VALQUA WAY」のもと、好奇心とチャレンジ精神を胸に、社会の発展のために・正堂堂と・世界中のステークホルダーへ、独創的技術で、さらなる改革と挑戦を続けてまいります。引き続き、当社グループへの変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

代表取締役会長 CEO 瀧澤 利一  
代表取締役社長 COO 本坊 吉博

Special feature.1 **CX 推進**

# 進化し続ける ライニングタンクサービス事業 ～ライニング製造のパイオニアとしての誇り～

貢献するSDGs



## 国内生産の重要性の高まり ～戦略的不可欠性～

半導体はスマートフォン、パソコン、オートモーティブ等に代表される我々の生活に欠かせない、工業製品の主要部材です。また、急速に進む情報化社会の重要インフラとして、今後も、技術革新や市場規模の拡大が見込まれる製品分野のひとつです。

これまで、半導体の生産は特定の諸外国に集中してきましたが、日本は国家戦略として半導体産業の国内復活、競争力優位を掲げており、国内生産の重要性を見直す動きが高まっています。この流れは、世界最大の半導体ファンドリーが熊本県での生産立ち上げを開始したことから象徴的です（なお、バルカーグループは、これまでの海外での実績が評価され、同社よりライニングタンクを受注しており、台湾での生産・製品供給の段階に入っています）。

このように、国内では空前の半導体投資ブームの到来を迎えています。今後、半導体製造プロセスにおいて使用する薬液供給用ライニングタンク、国内外から高純度薬液を搬送するライニング ISO コンテナの流通量は、さらに増加していくことが予想されます。バルカーグループの主力製品であるライニングタンクは、このような産業構造の変化を踏まえ、日本における生産活動の拡大が不可欠な重要製品のひとつと言えるでしょう。



ISO コンテナ外観

## 新技術とサービスで挑む 国内サプライチェーンの強化

半導体産業の国内生産回帰の動きや長期的な需要発生の可能性に鑑み、バルカーグループでは中期経営計画“New Frontier 2023”（NF2023）において、主力製品であるライニングタンク、ライニング ISO コンテナの国内生産力強化、次世代半導体の製造に向けた技術向上を優先的に取り組む課題として位置付けています。そしてこの課題への挑戦として、このたび愛知県田原市に新たなライニングタンク工場（仮称：田原工場）への投資を決定しました。これは自社生産機能をもつ国内拠点の投資としては旧奈良工場（現在の株式会社バルカー シール ソリューションズ）以来 30 年ぶりとなります。敷地面積は約 11.5 千㎡、延べ床面積は約 5.5 千㎡であり、2025 年 1 月の完工・生産開始を予定します。

田原工場では従来のライニング製法によるタンク製造に留まらない、新技術・サービスを導入した先進的なタンク事業を展開していきます。微細化する半導体に世界一クリーンなタンクで貢献する「事前洗浄タンク」、タンク内部の状態を把握する「タンク診断」、環境負荷を低減した環境にやさしい製造方法の採用など、先端半導体を支える高品質・高サービスをより一層追求した、ライニングタンクのグローバル旗艦工場としての役割を担います。

また、田原工場の稼働により、ライニング施工まで国内での一気通貫が可能となり、サプライチェーン分断リスクを低減、戦略的サプライチェーンマネジメントを実現します。当社グループの生産効率を高め、グローバルで需要が拡大している半導体工場向けに、迅速且つ安定した製品の供給の実現を目指し、昨今社会問題にもなっている半導体不足の解消、半導体の高度化に貢献していきます。

ライニングタンク  
外観

田原新工場のイメージ図（デザイン図）

なお、本投資は、経済産業省の“サプライチェーン対策の国内投資促進事業”として採択されており、国内サプライチェーン強化に資する事業として政府からも認定を受けています。

## ライニング製造の真のスペシャリストへ

バルカーグループでは、1972 年に国内で初めてのライニングタンクの生産を開始、その後 1977 年に塩ビ溶接の技術を応用した PTFE シートを PFA で溶接する現在の製法を国内で初めて開発しました。

その後、競合に先駆け 1997 年にいち早く台湾に子会社を設立（現在の台湾バルカー国際有限公司）、2017 年にバルカー NGC（米国）、さらに同年中国・上海にあるバルカーシール（上海）有限公司内に新たにライニングタンク工場を設け、グローバルネットワークを拡充します。

台湾子会社は、2012 年と 2015 年に工場増設、さらに 2021 年に高雄市の「南部サイエンスパーク」内に従来工場の 2 倍の工場面積（敷地面積は約 15.0 千㎡、延べ床面積は約 6.6 千㎡）を有する新工場の稼働を開始しました。ふっ素樹脂特殊タンクを戦略製品として位置づけ、グローバルサプライチェーンの中核拠点として品質向上に向けた技術開発などを推進しています。昨年は、前述の「事前洗

浄タンク」をバルカーグループで初めて本格導入するなど、先端半導体を支えるタンク事業を積極的に展開しています。設立から 26 年目となる 2023 年現在、ふっ素樹脂の高い品質、丁寧なタンク内面加工と仕上げ、各種サービスの点から台湾内外の顧客より厚い信頼を獲得し、グループを代表する海外生産拠点のひとつへと成長を果たしています。

そして来たる 2025 年 1 月、グローバル旗艦工場となる田原工場が新たに誕生します。バルカーグループは、従前の高品質へのこだわりは一層強く、強靱なサプライチェーンによる安定調達、製造から修理、法定点検そして予知保全までを実現するライニング製造の真のスペシャリストへと進化を遂げます。

我々はパイオニアとしての歩みを止めることなく、これからも世界のライニング製造を牽引し続けてまいります。



台湾バルカー国際（空撮）

## Special feature.2 人材育成

## 自分らしく、前例のないことに挑戦する女性管理職

貢献するSDGs



(本稿は本人の日本語執筆に加筆・修正をしています)

## “初”の新卒女性営業としての苦悩と経験

私は中国出身で日本に留学していた頃に、日本の「ものづくり」の素晴らしさに惹かれ、日本の技術や製品を世界に広める「橋渡し」のような仕事をしたという想いで、日本で就職活動を始めました。興味ある数社の会社説明会に参加する中で、印象に残ったのがバルカーでした。バルカーは、「THE VALQUA WAY」という企業理念のもと、長い間培われてきた高い技術力を強みに、グローバル展開を大胆に行っていたため、「多様な文化や価値観に触れられる、国際ビジネスについて学べるチャンスがある魅力的な会社だ」と思い、また、何より、会社説明会や役員面接で女性の登用について、男女平等な姿勢が感じられたので、入社を決めました。

入社後は、“初”の新卒女性営業として、シール製品の主要顧客である、大手プラント業界を担当している営業部署に配属されました。OJTの際に、厳しく、時には優しい指導を受けながら、着実に経験を積むことができました。



2012年、「THE VALQUA WAY」理解と実践活動の全社大会で第一席受賞を記念し、瀧澤 CEO と

## 前例がない分、自分でつくり上げる。型にはまらず「自分らしく」挑戦。

入社当時、社内には、女性営業で管理職をしている先輩がおらず、なかなか相談できずに悩んだ時期もありました。そんな時、「前例がない分、自分でつくり上げていく自由がある」と思い、上司や同僚と相談しながら、自分の強みを意識した「自分らしさ」で奮闘しました。顧客、上司、同僚などの周囲に恵まれ、助けられながら、とにかく成果を出したく日々駆け回りました。また、「前例がないからこそ、やりがいがある」と考え、“初”のことにチャレンジし続ける私に、バルカーは

台湾バルカー国際 副総経理  
田中 福

中国出身で、日本への留学中に日本の「ものづくり」に惹かれ、2009年にバルカーへ入社。入社後、約12年に渡り日本国内の営業部門でキャリアを積み、日本国籍を取得。その後、2021年に台湾バルカー国際の副総経理(副社長)として赴任し、現在は主に、業績の管理、コンプライアンス、内部統制などのガバナンス強化および、現地従業員の育成に励んでいる。

その舞台を提供してくれ、やがて評価されるようになり、プライベートでも、結婚し出産することとなりました。

その後、産休・育休を経て、元の営業部門に復帰したものの、仕事と育児の両立にジレンマを感じ、「こんなはずがない」という焦りと不安を抱えていました。ライフステージの変化に直面しながらも、上司や同僚、家族の理解と協力を得て、また、フレックス勤務などの制度を最大限に活用し、乗り越えることができました。今思えば、当時は沢山の期待やプレッシャーを感じていました。しかし、周囲の期待に応える完璧な自分になるのではなく、チャンスや転機をポジティブに受け止め、自分の特性や強み、経験をもとに、自分が納得いくよう自分らしい挑戦を続けた結果、今のポジションにつながり、女性管理職としての先例の一つになれたのではないかと思います。

自分らしく頑張ることを許してもらえ、評価してもらえる、また、色々な挑戦を認めてくれるバルカーには感謝でいっぱいです。

## 次世代につなげるため、女性リーダーとしての挑戦

2020年4月には、営業課長を拝命し、プレイヤーからマネージャーの立場となり、全員年上の元同僚たちが部下となり、互いに接し方に戸惑っているのを感じました。しかし、そのことに、悩む暇もなく、部下の価値観や特性を尊重しつ



台湾バルカー国際 高雄本社にて

つ、個々に合わせた指導や良好なコミュニケーションを心掛けました。その結果、徐々に風通しの良い組織となりました。部下も自主的に挑戦への姿勢を見せてくれた頃、当時の上司から、21年1月付で、子会社である台湾バルカー国際への転勤、しかも、副総経理(副社長)という役職の内示を受け、一瞬間が真っ白になったのを、今でも覚えています。自分の知識や経験が通用する環境に留まり、その延長でキャリアを積んでいける楽な道もありますが、さらなるキャリアアップを目指すには「今まで経験したことのない新領域での挑戦」が必要だと思い、前向きに検討することにしました。内示が出てから、帰宅後に家族に相談すると、夫は迷わず、「(今働いている)会社を辞めるから、一緒に(台湾へ)行こう」と後押ししてくれたことにも、びっくりしました。

海外駐在は初めてでしたが、家族と一緒にならたとえどんな環境でも、自分がやりたいことを思いっきりチャレンジできると思い、挑戦することに決めました。台湾に赴任してからしばらくの間は、営業部門でしか経験のない私が、いきなり国民性も商習慣も価値観も違う人々を経営者視点でマネジメントしながら、業績管理のみならず、財務関連、内部統制、基幹システム導入の対応など、知識も経験も少ない未経験のことばかりで、不安な気持ちも沢山ありました。バルカー本社の役員や、台湾バルカー国際の総経理(社長)の指導やアドバイスのもと、「THE VALQUA WAY」を軸とした考え方で、自ら解決策を模索しながら、一つずつ丁寧に対応していきました。大変な思いもしましたが、現地従業員とともに同じゴールにベクトルを合わせ実行していく過程で、異文化理解や相手をリスペクトしつつ協和していくことの重要性、経営者が持つべきスキルとマインドを高めることができました。台湾での貴重な経験と自己成長は、きっと組織の成長、会社の成長にもつながるものだと確信しています。



会計課メンバーとの車庫の様子

## サステナブルな社会の実現に向けて、バルカーとともに挑戦し続ける

2021年4月には、瀧澤 CEO から、台湾、韓国、ベトナムの3拠点の幹部候補6名とともに、2年間の海外経営幹部養成講座のメンバーに選抜され、とても光栄に思いました。

また、この講座の参加者7名は皆、違うバックグラウンドを持ちながらも「バルカーを真のグローバル企業へ成長させたい」という共通の目標に向かって、切磋琢磨しながら研修をやり遂げました。この研修を通じて、多様性を許容することの重要性と、経営者としての覚悟・信念、必要なスキルなど、激動の現代に相応しいリーダーとなるためのポイントを沢山学びました。何より、この研修をきっかけに瀧澤 CEO と直接話をする機会が増え、バルカーのビジョナリー経営について、より深く理解ができるようになりました。

バルカーは、従業員一人ひとりの成長が持続的かつ健全な成長につながっていくと考え、異なるバックグラウンドを持つ人々が、互いにリスペクトしつつ高め合うことを重視しています。また、国籍・性別・年齢を問わず、キャリアの形成を支援するための研修制度や、多様で柔軟な働き方を支援する環境への整備、組織全体の意識・行動変革など、組織を牽引する経営リーダーの育成をより強化しており、私もこの活動に積極的に参加したいと思っています。

そして、私は女性管理職として、プライベートでは母として、これからも「THE VALQUA WAY」のもと、自分の可能性を最大限に広げられるよう、国内、海外問わず挑戦し続けます。そして、ハツラツと活躍する私の姿が多くの従業員のモチベーションを上げ、その結果、女性管理職を目指す女性従業員の目標だと思ってもらえるよう願っています。

また、将来的には次世代の経営の一翼を担い、サステナブルな社会の実現に貢献する企業として、バルカーを成長させていきたいと思っています。



2023年、瀧澤 CEO 主催の Well-being Thanks Party で、管理部門と瀧澤 CEO と

# バルカーグループの事業概要

バルカーグループは、シール製品事業、機能樹脂製品事業、シリコンウエハーリサイクル事業などをグローバルに展開しています。

## グローバルネットワーク



## 事業概要一覧

### シール製品事業

主に、プラント・機器関連製品・エラストマー製品・自動車部品に係るシール製品の開発、生産、販売



バルカーグループの主力事業として、さまざまな産業向けに配管・機器用のシール材を提供しています。先端産業市場、また、機器市場やプラント市場向けに、DXによる新たな価値を提供していきます。

### 機能樹脂製品事業

主に、ふっ素樹脂製品を中心とする機能樹脂製品の開発、生産、販売



機能樹脂の優れた特性を活かして半導体装置・産業機械をはじめ多様な分野で使用されています。先端産業市場・プラント市場に向けた戦略製品を軸に、サプライチェーンの整備を図り、グローバルに価値を提供していきます。

### シリコンウエハーリサイクル事業他

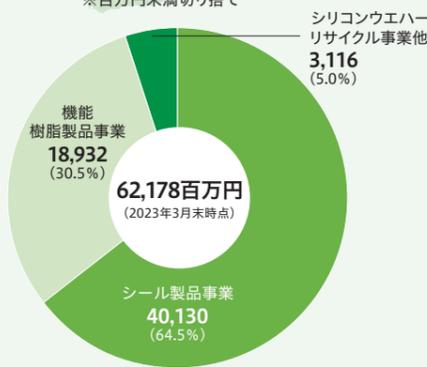
主に、シリコンウエハーリサイクル事業およびH&S事業を中心とする製品の開発、生産、販売



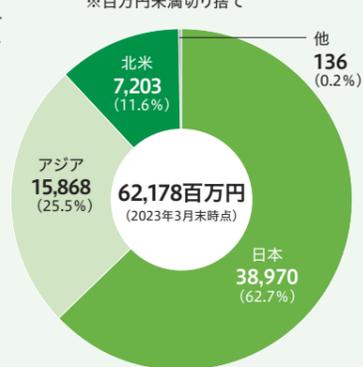
シリコンウエハーリサイクル事業などにより地球環境に貢献しています。H&S事業のさらなる進展により、新たな価値創造を具現化し幅広い産業に貢献していきます。

## バルカーグループの事業

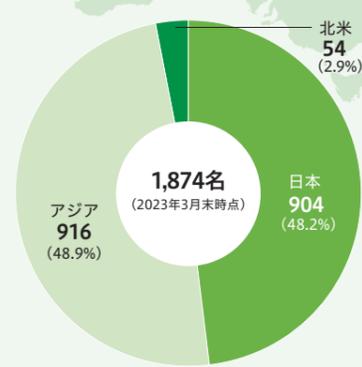
▼ セグメント別売上高(百万円)  
※百万円未満切り捨て



▼ 地域別売上高(百万円)  
※百万円未満切り捨て



▼ 地域別従業員数  
※平均臨時雇用者(192名)含む



その他データについては、当社ホームページからご確認ください。  
<https://www.valqua.co.jp/>

VALQUA with Society

バルカーと社会との関わり

私たちの“製品&サービス”が  
さまざまなところで活躍しています。

A 宇宙ロケット・人工衛星

**メタル中空リング**  
宇宙空間においても漏れを防ぐほどの高機能ガスケットで、ロケットや人工衛星の他、高温・高圧・高真空が要求される機器に使用されています。

B 太陽光発電

**太陽光発電事業**  
九州バルカーの敷地内に設置されたメガソーラーは、日々クリーンなエネルギーを生み出し、地球環境の保全と地域への貢献につなげています。

C 変電所

**ふっ素樹脂加工品**  
高い絶縁性能を生かし、落雷の影響を無くす機器や送電量をコントロールする機器で用いられます。

D 携帯電話基地局 (5G)

**ふっ素樹脂基板**  
PTFEの優れた電気特性と耐候性を生かした基板材料がアンテナ機器周辺および自動運転にも使用され、安全・高速・大容量通信の実現に寄与しています。

E 建設機械

**Oリング**  
静的・動的シールの代表的な製品で、用途に応じたゴム材料を使用することにより幅広い産業からのニーズに対応しています。

**スラストプレート**  
シヨベルカーなどのヒンジ可動部の隙間に組み込まれ、隙間調整、鳴き防止、カジリ防止などの役割を担っています。

F 自動車

**オートマチックトランスミッション(AT)用ガスケット**  
ATを制御する油圧コントロール装置(バルブボディ)に使用されるガスケットで、装置内の油をシールすることにより滑らかで応答性の良い変速を行うために使用されています。



A 宇宙ロケット・人工衛星



G 化学プラント



**ふっ素樹脂ライニングボールバルブ**  
化学薬品に強いふっ素樹脂を接液部全面に採用し、幅広い種類の流体の制御に活躍しています。



**ふっ素樹脂ガスケット**  
化学薬品に強い素材でできており、配管や機器のつなぎ目から薬液やガスが漏れるのを防いでいます。

**ふっ素樹脂ライニング鋼管**  
化学薬品に強い、表面が平滑である、などのふっ素樹脂の特性を生かし、中を流れる流体の純粋性を保っています。

H ポータブルメディア



**ふっ素樹脂テープ**  
高い絶縁性と優れた加工性を持ち、通信機器の性能向上と小型化に貢献しています。

メンテナンス領域におけるデジタルソリューション



MONiPLAT™

設備の定期点検と状態監視を一元管理可能な設備点検プラットフォーム。スマホとPCでラクラク定期点検/設備管理。



SDM工事管理システム

VALQUA SPM™ SMART PLANT MANAGEMENT  
プラント、工場のメンテナンスにおけるCloudシステム。定期修理工事、検査の効率化を実現する施工管理システムの決定版!

J 製鉄プラント



**高機能シートガスケット**  
従来の製品の性能を大きく上回り、特に高温耐性が要求されるプラントで活躍しています。



**うず巻形ガスケット**  
金属の補強をつけた製品で、高温・高圧で運転されるプラントの安全操作を支えています。



**回転軸シール(LFR SEAL®)**  
摺動性に優れたシール材で、各種生産用機器の回転および揺動部向けに開発されました。

K 半導体工場



**再生シリコンウエハー**  
半導体製造装置の動作チェックなどで使用されたシリコンウエハーを、独自のノウハウで研磨・洗浄し、新品同様に再生・提供することで、環境負荷低減に貢献しています。



**ふっ素樹脂ライニングタンク**  
ふっ素樹脂シートで内貼りした薬液用タンクで、半導体製造で使用される超高純度の薬液の貯蔵、搬送に欠かせない製品です。



**高機能エラストマー**  
不純物の少ない特殊なゴムに表面処理を施した製品で、半導体製造に不可欠なクリーンな環境を保っています。



**ボンデッドゲートシール**  
高機能エラストマーと金属の一体型シールです。高いシール性を持ち、シリコンウエハーの搬入口に用いられています。

L 船舶

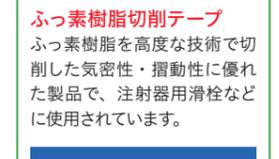


**グランドパッキング**  
作動軸周辺からの漏れを防ぐ製品で、主に流体の搬送や遮断といった機能を担う回転ポンプやバルブで使われています。



**ふっ素樹脂ライニングISOコンテナ**  
化学薬品に強い、表面が平滑である、などのふっ素樹脂の特性を生かし、流体の純粋性を保ち目的のまで搬送します。

M 医療機関



**ふっ素樹脂切削テープ**  
ふっ素樹脂を高度な技術で切削した気密性・摺動性に優れた製品で、注射器用滑栓などに使用されています。

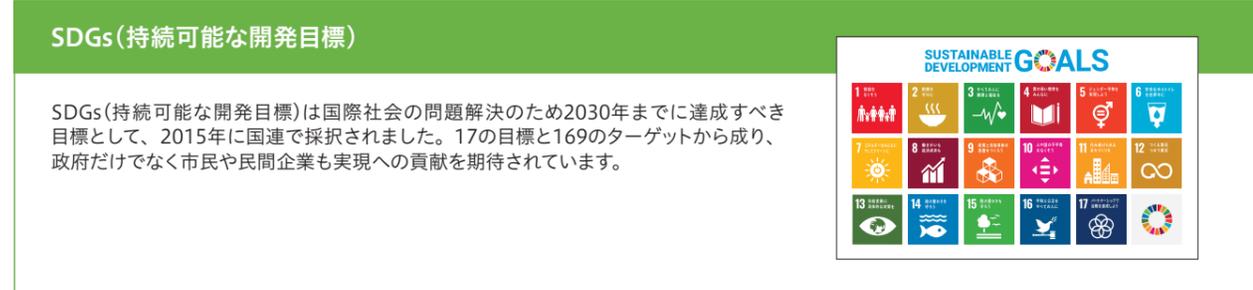
# SDGsの考え方および方針

バルカーグループは企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、事業活動を通じてサステナビリティ重要課題に積極的に取り組み、SDGsと持続可能な社会の実現のために貢献していきます。

## SDGs貢献への取り組み

バルカーグループは、創業100周年(2027年)のありたい企業像で掲げた「より良き地球市民として『環境・社会・企業統治』への積極的な取り組み」を行うため、SDGsの全17のゴールのう

ち、事業活動全体を通じて貢献できると考えられる目標を6つ特定し、攻めである「本業(H&S事業)を通じた社会的課題解決」、守りである「経営基盤の強化」に、「社会貢献活動」を合わせた3つを軸とした活動を推進しています。



# サステナビリティ マネジメント

バルカーグループは「サステナビリティ」を重要な経営課題と位置付け、2022年、「バルカーグループCSR推進委員会」から「バルカーグループサステナビリティ委員会」へと名称を変更しました。企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、人類の豊かさや地球環境に貢献するため「VALQUA Sustainable Action」(バルカー サステナブル アクション) を着実に実行していきます。

## バルカーにとってのサステナビリティ

バルカーグループはサステナビリティを、【企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、健全で持続的な成長と持続可能な社会を実現すること】と考えています。

バルカーグループは、これからも、人類の豊かさや地球環境に貢献するために、事業活動を通してサステナビリティ活動を推進し、「価値の創造と品質の向上」を追求し続けていきます。

「VALQUA Sustainable Action」とし、次の活動を進めています。

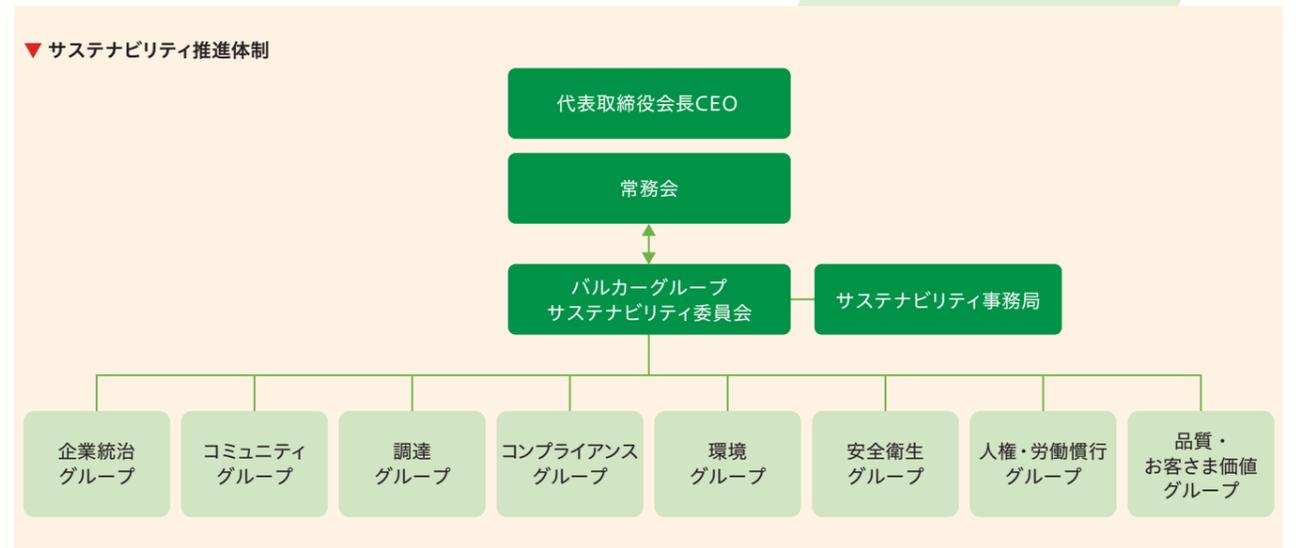
1. サステナビリティ経営に資する重要課題の見直し
2. 重要課題ごとの具体的な目標設定と進捗管理
3. サステナビリティレポート等を通じた経営戦略とつながるサステナビリティ活動状況の開示拡充

## CSRからサステナビリティへ

2022年4月、サステナビリティ活動を加速するため、従来の「CSR」を「サステナビリティ」として拡充して捉え直し、推進体制を「バルカーグループCSR推進委員会」から「バルカーグループサステナビリティ委員会」へと名称を変更して体制を強化しました。また、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを

## サステナビリティ推進体制

「バルカーグループサステナビリティ委員会」をグループ全体のサステナビリティ活動を議論する重要な会議体として位置付け、取締役専務執行役員を委員長として、バルカーグループの執行役員で構成しています。半期に1回定期的に開催するほか、必要に応じて適宜開催し、その結果を半期ごとに常務会で報告しています。



# サステナビリティ重要課題

バルカーグループでは、現在、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、環境、安全衛生、サプライチェーンマネジメント、人材・人権、顧客満足、コミュニティの8つを重点領域とした、16の重要課題を設定し、重要課題に沿った具体的かつ積極的な取り組みを推進しています。

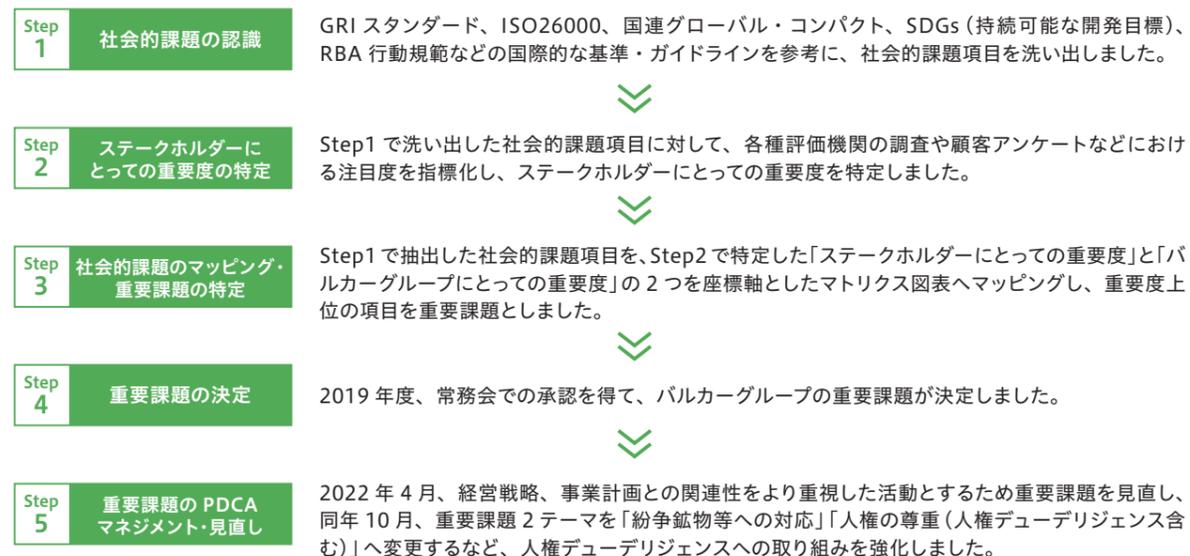
2022年10月、人権デューデリジェンスを意識した活動とするため、重要課題2テーマを変更し、「紛争鉱物等への対応」「人権の尊重(人権デューデリジェンス含む)」としました。

重要課題	何故・何のために	基本的な方針	主な取り組み	貢献するSDGs	
コーポレート・ガバナンス	01. 企業理念の浸透	企業理念を中心としたビジョナリー経営により健全で持続的な成長を目指すため	企業理念「THE VALQUA WAY」を中心としたビジョナリー経営により健全で持続的な成長を目指す	1) 「THE VALQUA WAY」のグループ全体への浸透活動 2) 「THE VALQUA WAY」理解と実践活動 階層別全社大会の開催 3) 社内外へのビジョナリー経営の周知活動	3 持続可能な生産・消費 7 持続可能なエネルギー 8 豊かになる経済
	02. コーポレート・ガバナンスの強化	社会的責任を果たすための有効な意思決定の仕組みを持つことが重要であるため	「THE VALQUA WAY」のもと経営体制を構築し、その充実に努める	グローバルガバナンス体制の強化と、情報開示拡充のための取り組み	9 持続可能な消費 12 持続可能な生産
	03. グループグローバルな活動の推進	グローバル展開の進展により、多様なバックグラウンド・価値観を持つ従業員が増える中、グループ全体で一体感をもった事業活動とするため	グループ全体で「THE VALQUA WAY」の行動指針10項を具現化を図り、事業継続性の強化、およびグローバルな社会的課題の解決につなげる	グループ全体でのサステナビリティ活動の強化、および情報開示拡充への取り組み	
	04. ステークホルダーとの対話	建設的な対話による相互理解を深め、それを当社の企業価値の向上に繋げるため。あるいは、共通の社会的課題の解決を図るため	さまざまなステークホルダーとの対話を通じて「THE VALQUA WAY」行動指針10項を具現化し、それを自社の企業価値の向上、事業継続性の強化、社会的な課題解決につなげる	さまざまなステークホルダーとの建設的対話の実施	
コンプライアンス	05. 汚職・贈収賄の防止	贈収賄防止はもとより疑義が生じる行為も防止するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスハンドブック」に基づいた業務を遂行する	汚職・贈収賄の防止を含むリスク・コンプライアンス強化と、情報開示拡充のための取り組み	12 持続可能な消費
	06. 法令等の遵守	社会的責任を果たし、期待に応えていくために、コンプライアンス経営の徹底を図るため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスハンドブック」に基づいた業務を遂行する	法令遵守の実効性をさらに高めるための取り組み、開示拡充のための取り組み	
	07. 環境関連法令等の遵守	年々強化される環境汚染防止の法令違反による事業活動への影響を回避するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスハンドブック」に基づいた業務を遂行する	環境リスク・コンプライアンス遵守の徹底	
環境	08. 環境負荷物質の漏出防止と低減	高度な技術を生かし、環境負荷物質低減につながる製品やサービスで低炭素社会の実現に貢献するため	行動指針の「環境にやさしいモノづくり」のもと、社会的課題解決に資する製品や技術を提供する	環境汚染対策など社会的課題解決のための製品、サービスの開発と展開	7 持続可能なエネルギー 8 豊かになる経済 9 持続可能な消費
	09. 事業上の環境負荷物質の低減	モノづくり企業として社会的責任を果たすため、環境に与えるマイナスの影響を最小化する事業活動を行うため	行動指針の「資産の保全と有効活用」のもと、環境資源を考慮した活動を行う	事業上排出される環境負荷物質の低減活動	12 持続可能な消費 17 持続可能なパートナーシップ
安全衛生	10. 労働安全衛生	健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整え、従業員の幸福と事業の発展へつなげるため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、働きやすい環境をつくる	1) 安全衛生を推進する人材の育成、リスクアセスメントの有効化など各種労働安全衛生活動の取り組み 2) 健康経営を目指し、従業員の心身の健康を増進するための教育と習慣化活動の取り組み	3 持続可能な生産・消費
サプライチェーンマネジメント	11. 紛争鉱物等への対応	サプライチェーンのグローバル化に伴って複雑化した問題を解決するため	行動指針の「環境にやさしいモノづくり」のもと、「調達基本方針」に基づいた業務を遂行する	CSR調達ガイドラインに基づいた調達活動の啓蒙活動と推進	12 持続可能な消費
人材・人権	12. 人材の多様性確保	多様な人材が個性を生かし、自らの価値を高め成長できる環境を整備し健全で持続的な成長へつなげるため	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、従業員の多様性、人格、個性を尊重し、能力発揮しやすい環境をつくる	多様な人材の活躍推進と柔軟な働き方の推進	8 豊かになる経済 9 持続可能な消費
	13. 人権の尊重(人権デューデリジェンス含む)	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、啓発活動を通して人権への配慮を徹底するため	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、「バルカーグループ人権基本方針」に沿った事業活動の遂行	人権に関するさまざまな国際規範の理解と啓発活動の取り組み	
	14. 人材育成	自社の事業の発展に貢献できる人材を育成するため	行動指針の「チャレンジ精神にあふれた『学習と成長』」への強いこだわりのもと自ら考えながら、新たなことに挑み続けることができる人材を育成する	1) バルカーパーソンの育成 2) グループ経営を担うコア人材の開発 3) 拠点経営を担うコア人材の開発 4) 各事業部・各社での人材の育成	
顧客満足	15. 品質の向上と顧客の安全・安心	国内外のお客さまの安全面での課題をともに解決し、安心と満足を提供するため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、自社だけでなく、国内外のお客さまの安全・安心に貢献する	1) 製商品の品質の管理と、安全な使用のための情報提供・サービス 2) お客さまの安全・安心のための製商品、サービスの展開	9 持続可能な消費 12 持続可能な消費
コミュニティ	16. スポーツ・文化・芸術の振興 地域社会との共生	スポーツ振興支援や、地域に根差したサステナビリティ活動を通じて、安全・安心で豊かな社会づくりに貢献するため	行動指針の「地域社会との共生」のもと、スポーツ振興支援や、地域に根差した社会貢献を行う	1) ボールルームダンスの振興支援を通じた社会貢献活動 2) 事業所周辺の緑化活動、寄付活動などの社会貢献活動	3 持続可能な生産・消費

## サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)の特定

バルカーグループは、当社グループに関わる社会的課題項目を抽出し、「ステークホルダーにとっての重要度」と「バルカーグループにとっての重要度」の両面でマテリアリティを特定しました。それぞれのマテリアリティごとの目標を設定し、取り組んでいます。また、2022年「NF2023」の経営戦略を反映し、一部マテリアリティを変更しています。

### サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)の特定プロセス



### 社会的課題のマッピング

へステークホルダーにとっての重要度

	◆本業(H&S事業)を通じた社会的課題の解決	●経営基盤の強化	■社会貢献活動
●良好な労使関係づくり	●事業上の環境負荷物質の低減	●企業理念の浸透 ●グループグローバルな活動の推進 ●環境関連法令等の遵守 ●法令等の遵守 ◆環境負荷物質の漏出防止と低減 ●労働安全衛生	
●ブランド管理 ●重要課題の設定とサステナビリティマネジメント	●人材の多様性確保 ●人権の尊重(人権デューデリジェンス含む) ●紛争鉱物等への対応	●コーポレート・ガバナンスの強化 ●ステークホルダーとの対話 ●汚職・贈収賄の防止 ●人材育成 ◆品質の向上と顧客の安全・安心 ■スポーツ・文化・芸術の振興/地域社会との共生	
■生物多様性の保全 ●公正なマーケティングおよび情報提供 ●情報セキュリティの強化	●ESG情報の開示と信頼性向上 ●リスクマネジメント(BCM・BCP)	●サプライチェーンマネジメント ●公正な取引	

バルカーグループにとっての重要度 >>

※各象限内での重要度に違いはない

## バルカーグループ 2022年度 サステナビリティ活動

重要課題16テーマを8つの重点領域に分けて紹介します。

### コーポレート・ガバナンス

- 01 企業理念の浸透
- 02 コーポレート・ガバナンスの強化
- 03 グループグローバルな活動の推進
- 04 ステークホルダーとの対話

### コンプライアンス

- 05 汚職・贈収賄の防止
- 06 法令等の遵守
- 07 環境関連法令等の遵守

### 環境

- 08 環境負荷物質の漏出防止と低減
- 09 事業上の環境負荷物質の低減

### 安全衛生

- 10 労働安全衛生

### サプライチェーンマネジメント

- 11 紛争鉱物等への対応

### 人材・人権

- 12 人材の多様性確保
- 13 人権の尊重(人権デューデリジェンス含む)
- 14 人材育成

### 顧客満足

- 15 品質の向上と顧客の安全・安心

### コミュニティ

- 16 スポーツ・文化・芸術の振興/地域社会との共生



# コーポレート・ガバナンス



## 01 企業理念の浸透

### 「THE VALQUA WAY」理解と実践活動

バルカーグループでは、グループ共通の企業理念「THE VALQUA WAY」を、羅針盤、行動規範として、日々の活動の基盤としています。8つの国と地域のバルカーグループの従業員一人ひとりが、自らの業務にそのマインドを落とし込み、自分事として、業務の中に問題意識を持ち、業務の改善・改革につなげる活動を行っています。

また、「THE VALQUA WAY」をより浸透させるため、1年を通しての活動を共有する場として実践発表会を毎年実施しています。この実践発表会は、いかに「THE VALQUA WAY」を自身の業務に落とし込みができたかを発表するものです。

国内・階層別に予選会を行い、毎年1月に予選を勝ち抜いた代表者による全社大会を開催しており、2022年度で15回目を数えました。経営基幹職は、毎年10月に実践発表会を開催していますが、職責に応じた活動と発表内容になるよう、工夫を凝らし、関係会社社長職と部長相当職の2部門に分けて開催しました。2020年度・2021年度はコロナ禍のためリモートで開催しておりましたが、2022年度は3年ぶりに対面での大会を開催することができました。

2022年度には、新中期経営計画「New Frontier2023」(NF2023)のもと、ビジョナリー経営のさらなる推進を目指し、推進部署「T.V.W.推進室」を新設しました。また、「健全で持続的な成長」をさらに確かなものにするためには、全グループ社員へ「THE VALQUA WAY」を深く浸透させることが必要不可欠であると考えている瀧澤は、自ら各地へ赴き管理職を対象に「CEO THE VALQUA WAY浸透推進フォーラム」を2019年度より開催していましたが、新型コロナウイルスの影響により開催を断念せざるを得ませんでした。2022年8月に当初対面を予定していたアセアン地区の開催は、新型コロナウイルス第7波の影響で急遽オンライン開催となりましたが、2023年3月にはようやく台湾にて3年ぶりに対面で開催することができました。

バルカーグループでは、社名にも込められている基本理念である「Value&Quality (価値の創造と品質の向上)」を実現すべく、従業員一人一人の強みにフォーカスした「MY VALQUA WAY」の全社大会を通じての相互理解の推進に加え、この数年間コロナを初めとする人類が経験したことのない未曾有の厳しい環境で得られた学びを基盤に、更なる人類の豊かさと地球環境に貢献するための「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を目指し、「OUR VALQUA WAY」というチームを意識した活動にも力を入れています。

今後もバルカーグループを上げて、ひた向きかつ覚悟をもってビジョナリー経営の推進に取り組んでいきます。



2023年1月全社大会(発表風景)



2022年10月経営基幹職実践発表会(表彰式)



2022年8月CEO「THE VALQUA WAY」フォーラムアセアンでのベトナム会場の模様(オンライン開催:日本、ベトナム、シンガポール、タイ)

## 02 コーポレート・ガバナンスの強化

### コーポレート・ガバナンス

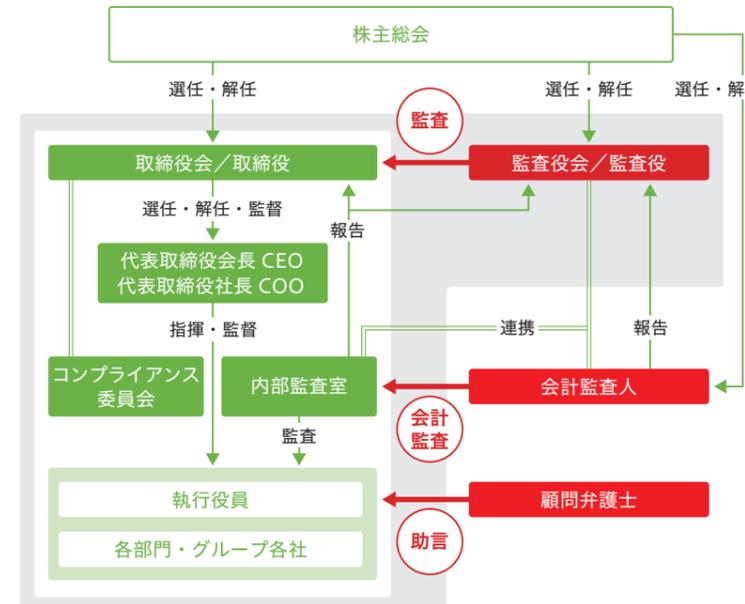
#### ■ 基本的な考え方

バルカーグループは、企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、シールエンジニアリングのバイオニアとして、企業の持続的な成長による企業価値の向上を実現するため、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための経営体制を構築し、最良のコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組んでいます。

#### ▼ 取締役会・監査役会の構成(2023年6月1日現在)

取締役	7名(男性5名、女性2名) うち社外取締役3名(男性1名、女性2名)
監査役	3名(男性3名) うち社外監査役2名(男性2名)

#### ▼ コーポレート・ガバナンス体制図



#### ■ コーポレート・ガバナンスの状況

経営環境の激変に迅速かつ確に対応するため、執行役員制度を導入し、取締役と執行役員の役割を分離した機動的なグループ経営体制を確立しています。また、弁護士1名、公認会計士1名を含む監査役が、取締役および執行役員の業務執行について監査を行うことで、経営に対する専門性の高い監視・監査機能を果たしています。

#### ■ 内部監査室

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの幅広い観点から監査を実施し、評価・提言を行っています。

### 内部統制システム

#### ■ 業務の透明性と信頼性を確保

透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築することによって、内部統制システムの整備・推進に努めています。会社法などに基づく「内部統制システムに関する基本的な考え方」を取締役会で決議し、この内容を外部環境・内部環境の変化に応じて適宜見直しています。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規定・規則や業務プロセスの整備・評価・改善を行っています。

その一環として、財務報告が有効である旨を記載した内部統制報告書を監査法人による適正意見を受けた上で開示しており、財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続しています。



# コンプライアンス

## 03 グループグローバルな活動の推進

### サステナビリティ活動とSHE活動

#### ■ サステナビリティ活動の推進

バルカーグループは従来より、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、「H&S事業を軸とした活動」「スポーツ振興支援」「地域社会に対する感謝の日」など、国内外のグループ会社が一体となって取り組みを行ってきました。

2021年からは、攻めである「本業（H&S）事業を通じた社会的課題解決」、守りである「経営基盤の強化」に、「社会貢献活動」を合わせた3つを軸とした活動を推進し、SDGs貢献への取り組みを強化しています。

また、2022年4月、従来の「CSR」を「サステナビリティ」として拡充して捉え直し、推進体制を「バルカーグループCSR推進委員会」から「バルカーグループサステナビリティ委員会」へと名称を

変更するとともに、体制を強化しました。また、2022年10月、NF2023との関連性をより重視し、「人権デューデリジェンス」への対応を図るため、重要課題の一部を変更しました。

今後もさまざまな社会的課題の解決に向けて、グループ体となったサステナビリティ活動を推進し、その開示にも努めていきます。

#### ■ SHE活動の推進

バルカーグループでは、グループSHE委員会を設置し、SHE（安全、健康、環境）を一元的に管理しています。CEOを委員長、COOを副委員長とし、各グループ会社・事業所を担当する執行役員を委員としています。SHE委員会は年1回以上の開催とし、バルカーグループのSHE活動の「年度方針」「活動計画」の決定や「活動状況」の確認を行っています。また、その内容を各グループ会社・事業所に設置したSHEチームに展開し、グループ全体で取り組んでいます。

#### SHE推進体制図

[https://www.valqua.co.jp/social/safety\\_health\\_environment/](https://www.valqua.co.jp/social/safety_health_environment/)

## 04 ステークホルダーとの対話

バルカーグループは、「THE VALQUA WAY」のもと、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通じて、信頼関係の構築を図るとともに、健全で持続的な成長の実現と企業価値の向上を目指します。

ステークホルダー	ステークホルダーへの対応	主なコミュニケーションの方法
お客さま	H&S企業として、開発・調達・生産・営業のバリューチェーン全体で、お客さま視点に立った真のサービスソリューションを通して、お客さま価値の最大化の実現を目指しています。	● 営業活動全般：日々の営業活動／販売店懇親会の開催／展示会の開催／お問い合わせ対応／CSアンケートの実施／安全データシート(SDS)／各製品カタログ／カスタマーサポートツール・技術資料の発行
株主・株式市場関係者	適切かつ公正な情報の開示を実施し、それを基に株主・株式市場関係者との建設的な対話を積極的に行っています。そして対話により得られた意見を持続的な企業価値の向上のために活用しています。	● IR活動全般：証券アナリスト・投資家など株式市場関係者との対話／株主総会・決算説明会の開催／IRツール・資料の発行
取引先（調達先）	公平・公正、法令遵守、環境配慮、相互信頼を基本とした、CSR調達の推進に取り組んでいます。	● 購買活動全般：取引先との会議／CSR調達ガイドライン／CSR調達アンケートの実施
行政・自治体	法令遵守と適切な情報開示に取り組んでいます。	● 各種届出・各種会議
従業員	安全衛生の確保、人権の尊重、ダイバーシティ推進を基本として、従業員が最大限に能力を発揮できる職場環境づくりに取り組んでいます。	● 従業員エンゲージメント活動全般：イントラネット／従業員エンゲージメント調査の実施／各種研修／自己啓発学習の支援／労使協議会の開催／社内通報制度による通報案件への対応／企業倫理ホットラインの開設
地域社会	グローバル社会、地域との共生を目指し、環境負荷の低減、社会貢献活動に取り組んでいます。	● 社会貢献活動全般：スポーツ振興支援を通じた社会貢献／地域社会に対する感謝の日／従業員によるボランティア活動／地域社会・NPOとの対話、寄付活動

## 05 汚職・贈収賄の防止

### リスクマネジメント

#### ■ 基本的な考え方

バルカーグループはステークホルダーとの信頼関係を維持し、事業を安定的に継続していくために、多様化するリスクとその影響を的確に把握し、コントロールできる管理体制を構築しています。

バルカーグループは、選択と集中による既存事業領域の収益拡大と新規事業領域の獲得による事業基盤の再構築を目指すとともに、組織単位でのリスクマネジメントとコンプライアンスの自律的遵守の強化をアニュアルポリシーで掲げ、取り組んできました。

2022年4月からの新中期経営計画NF2023においても、引き続き組織単位でのリスクマネジメントとコンプライアンスの自律的遵守の強化に取り組んでいます。

#### ■ リスク管理体制

バルカーグループはリスクマネジメントを強化するため、「リスク管理委員会」を設置し、国内外の事業環境の急激な変化と事業領域の拡大に伴って多様化するグループ経営上のリスクを一元管理しています。

大規模災害など事業の継続を脅かす事象が発生した場合に、グループの統制をとり迅速に対応するため、2020年に事業継続計画（BCP）マニュアルを策定し、運用を開始しています。

これからも、多様化するリスクに備え、リスクマネジメントの強化を図っていきます。

#### ■ 知的財産権管理

バルカーグループは、経営理念の一つに「独創的技術で」を掲げ、この独創的技術とサービスを融合させた「真のソリューション提供企業」への脱皮を目指しています。知的財産部では、企業活動で創出される価値を適切に保護し、お客さまの課題解決につながる製品やサービスの提供を支援しています。また、他者の知的財産権を尊重するために社内ルール・体制を整備し、自社製品やサービスが第三者の知的財産権を侵害しないよう、研究開発のさまざまな段階で調査を徹底しています。この調査は、知的財産部と研究開発部門の協力体制のもとグローバルに行うことで、国内のみならず海外においても、知的財産権の尊重を徹底しています。

#### ■ 国内外グループ会社における法令等の遵守

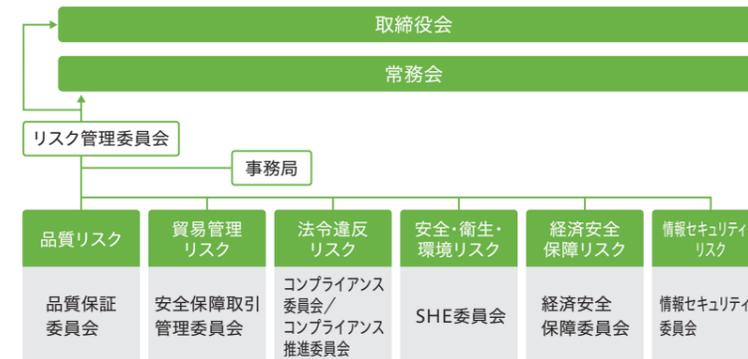
バルカーグループは、グループ全体の法令等の遵守を確実なものにするために、法律事務所、コンサルタント、法令情報提供サービス会社等の支援を受けながら、国内のみならず海外子会社に適用される関連法令を調査し、法令を遵守した業務の遂行を実践しています。国・地域ごとにその内容が大きく異なる法令等の遵守を徹底すべく、グループ全体で万全の態勢で臨んでいます。

### 腐敗防止

#### ■ 贈収賄防止の徹底

バルカーグループでは、全従業員に対して贈収賄防止の観点から周知を行うとともに、国内外の贈収賄規制に適切に対応するために、必要に応じて規定の見直しを行っています。また、国内・国外を問わずグループ全体の監査を実施し、贈収賄防止の徹底を図っています。

#### ▼ リスク管理体制



## 06 法令等の遵守

### コンプライアンス

#### ■ 基本的な考え方

バルカーグループにおける「コンプライアンス」とは、法令遵守にとどまりません。他の企業の模範となるべく積極的に法令や条例以上の企業倫理を遵守し、社会貢献や環境への配慮にまで踏み込んだ企業行動の実践によって、ステークホルダーの要求・信頼に応え、社会における信頼を勝ち得ていくことだと考えています。このコンプライアンスの重要性を理解し実践することが、バルカーグループの持続的な成長・発展を約束するものであると固く信じています。

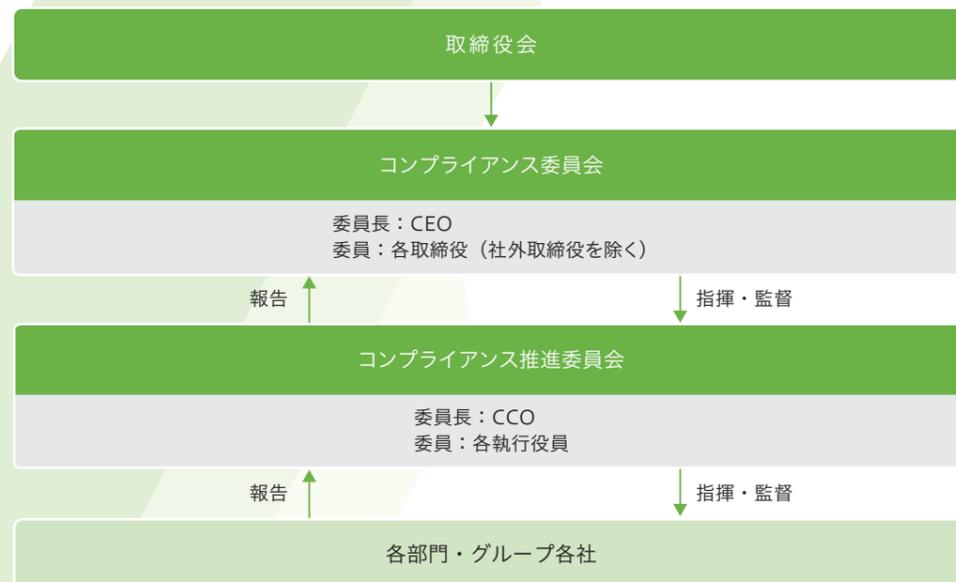
#### ■ コンプライアンスハンドブック

2003年に「コンプライアンス・マニュアル」を制定し、6言語（日本語、英語、簡体字、韓国語、

タイ語、ベトナム語）に翻訳することで、全グループ従業員が業務の指針として理解し、遵守すべきマニュアルとして活用してきました。その後、社会環境や要請の変化を踏まえ、具体的事例やチェックシートを盛り込むなど、内容を大幅に拡充させた「コンプライアンスハンドブック」として、日本語版は2020年5月、各国語版は2022年2月に改定し、国内外の全社で展開するとともに、階層別では管理職・リーダー向けに「ハラスメント防止のための行動ハンドブック」を2020年5月、役員向けに「企業経営とコンプライアンス－役員」の経営責任と重要課題－」を2020年11月に発行しました。

全グループ従業員がそれぞれの役割を認識しながらコンプライアンスに取り組む指針として活用しています。

#### ▼ コンプライアンス体制



#### ■ コンプライアンス体制

CEOを委員長としたコンプライアンス委員会と、その下にコンプライアンス推進委員会を設置し、コンプライアンス推進の最高責任者として任命された「チーフ・コンプライアンス・オフィサー」(CCO)を中心に、グループコンプライアンス体制の整備および向上に取り組んでいます。

#### ■ 報告・相談・通報制度

全グループ従業員が法令や社内規則などに関する報告・相談・通報ができる仕組みとして、①意見箱、②社内相談窓口、③CEOへのダイレクトライン、④外部企業倫理ホットライン（6言語対

応）、⑤社外弁護士への相談窓口といった各種窓口があり、通常の指揮命令系統から独立して運営し、情報の秘匿と報告・相談・通報したことで従業員に不利益が生じることがないように配慮しています。

なお、2018年度と2019年度には年間10件以上あった利用件数が、2020年度から2022年度にかけていずれも年間4件と減少傾向にあります。これは、各部門、子会社において様々な問題を懸念段階で事前に解決する取り組みが増えていることから、報告・相談・通報に至る前に適切な対処がなされているためと考えていますが、引き続き各種窓口の体制の実効性向上には注力していきたいと考えています。

## 07 環境関連法令等の遵守

### 環境リスクマネジメント

#### ■ 活動体制

2022年度、新型コロナウイルスによる停滞は一部みられたものの、世界的に環境規制強化はすすんでいます。そのなかで当社国内外生産関係会社における環境法令違反は、前年度に引き続き0件を維持しています。これは、生産会社において法規制への先行管理の徹底とフォローアップの活動を継続しており、環境規制対応能力が向上してきたものと考えています。

また、製品に関連する化学物質に対する規制強化の流れについては世界的にすすんでいます。弊社では規制に先んじて製造工程内の化学物質を低減する取り組みを行い、実績をあげています。

今後もこのような施策を通じ、規制強化にしっかりと対応していきます。

#### ■ 各生産関係会社の法令遵守体制の整備・運用・監査の実施

国内生産関係会社では、ISO14001にて特定した法令一覧を共有し、月次で変化点を検証することで、各社の解釈間違い、見落とし防止を図る活動を継続しています。また海外生産会社がそれぞれ特定した法令についても、月次の変化点について、グループ全体で共有しています。

法令遵守内部監査体制を各生産会社で整え、運用をしています。監査で発覚した不適合に対応していくことにより、継続的な改善を図っています。



# 08 環境負荷物質の漏出防止と低減

## 漏出防止と低減のための取り組み

### 2022年度事業活動に伴う環境負荷

バルカーグループでは事業活動におけるエネルギーや水などのINPUTや、エネルギー使用によるCO<sub>2</sub>の排出、生産工程から出る廃棄物などのOUTPUTを把握することで、環境負荷の全体像を捉えています。

国内外のグループ会社から、正確かつ迅速に収集し一元管理するため、サステナビリティ情報収集システムを導入し、適正な温室効果ガス係数を用いて算定、開示しています。

### 水素社会への取り組み

バルカーグループでは2020年に次世代エネルギーとして期待される水素市場向けに、エラストマー製シール材「BLISTANCE®」を発売しました。これはプリスター現象<sup>\*</sup>を発生させない画期的なエラストマー製品です。プリスターが発生し、シール材が破壊されると、水素ガスが漏洩する危険性があります。

2022年には極低温・急減圧の過酷な条件下で

の使用が想定される燃料電池自動車 (FCV) や、水素貯蔵タンク、エンジン回りの配管での使用を想定し、他社に先駆けて、現行仕様の-40℃より低温領域の-60℃仕様の製品を開発しました。

バルカーグループは強みである材料配合、シール設計の技術で、社会的課題を解決し脱炭素社会に向けて貢献していきます。

<sup>\*</sup>プリスター現象：高温・高圧環境下で水素がエラストマー素材に浸透し、急減圧で水素が膨張してゴム素材を破裂させる現象

### 水資源保全への取り組み

半導体の薬液を貯蔵するライニングタンクは、バルカーのふっ素樹脂技術を使った主力製品のひとつで、多くの半導体メーカー様、薬液メーカー様にご好評をいただいています。そのタンクを洗浄する際に回転洗浄と呼ばれるタンクを横に傾け回転させる技術を使うことで、通常の洗浄方法よりおよそ40%の洗浄液の省力化につながります。洗浄液や水の使用量低減以外にも、通常の洗浄よりも日数や管理工数も削減され、お客様に非常に喜ばれています。今後もタンク洗浄の技術を広く普及し、地球環境に貢献していきます。

### 環境データをはじめとするサステナビリティデータ

近年、持続可能な社会の実現に向けて、気候変動や資源問題などに対する企業の情報開示が一層求められています。バルカーグループではコンプライアンス遵守はもとより、環境データをはじめとするサステナビリティに関するデータをステークホルダーに対し、正確、かつ迅速に開示するため、2019年にサステナビリティ情報収集システムを導入。毎年、国内12拠点・海外13拠点の計25拠点から各種データを集計・集約しています。

これにより、環境データ、サステナビリティデータの一元管理によって見えてくる行動計画などのパフォーマンス向上や、GRIスタンダード、TCFDなどに沿った情報開示の拡充に努めています。

#### サステナビリティデータの管理項目

- 環境データ (GHG、廃棄物、化学物質等)
- 従業員データ (男女別正社員数・派遣社員数等)
- その他 (人権・福利厚生)

## 気候変動への対応



※TCFDについて  
<https://www.fsb-tcdf.org>  
 G20の要請を受け、主要国の金融関連省庁および中央銀行より構成された金融安定理事会 (FSB) により、2015年12月に設立されたタスクフォースで、2017年6月に気候関連の財務情報開示に関する提言を公表しました。現在、世界中の金融機関や企業、政府などがTCFDの提言に賛同しています。

株式会社バルカーは、2021年5月に「気候関連財務情報開示タスクフォース」(TCFD<sup>※</sup>) 提言への賛同を表明するとともに、提言の推進を目的に設立された「TCFDコンソーシアム」に加入しました。

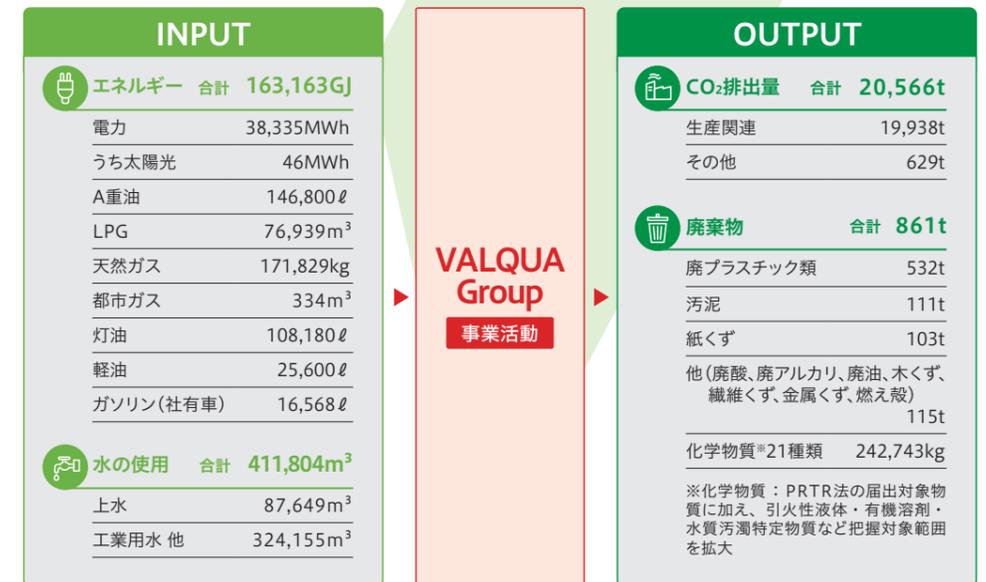
当社では企業理念「THE VALQUA WAY」に基づくビジョナリー経営を推進しており、社員の一人ひとりが「安全・衛生・環境」は人類共通の重要テーマの一つであることを強く意識した企業活動を実践しています。また、創業100周年 (2027年) を区切りとする長期経営目標では、ありたい企業像として「未来と未知に挑むチャレンジングな企業 - 人類の豊かさと地球環境に貢献するために -」を掲げ、より良き地球市民として「環境・社会・企業統治」に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献できる企業となることを目指しています。

2022年度は、TCFD提言に沿ったシナリオ分析を実施し、気候変動関連リスク・機会を整理するとともに、当社への影響を定性的に考察いたしました。この結果をもとに、TCFDで推奨される項目を随時開示していきます。

TCFD提言に基づく情報開示  
<https://www.valqua.co.jp/social/environment/>

# 09 事業上の環境負荷物質の低減

### ▼ マテリアルフロー



対象：バルカーグループの国内外事業所 (一部、地方営業所、駐在所、海外の販売会社など規模の小さい16拠点を除く)  
 集計期間：2022年4月～2023年3月

## 主要な環境負荷の推移

### ■ 温室効果ガス排出量(スコープ1・2)

2022年度は2021年度に比べて絶対量で2,374tの排出量減。内訳は生産量の増加に伴い3,860t増となる見込みでしたが、合理化・原価低減活動による温調管理の見直しや老朽化設備の更新の効果で242t削減、その他、生産増による効率向上、各国の電力排出係数変化の影響、また生産関係会社が1社連結外となったことにより5,992t減少しました。この結果、売上高原単位で23%の削減となりました。

### ■ 温室効果ガス排出量(スコープ3)

2014年度よりサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量の算定を始め、9年目となりました。スコープ3やその他環境に関するデータの詳細はホームページをご覧ください。

### ■ 廃棄物最終処分量

2022年度は2021年度に比べて絶対量で1tの排出量増。内訳は生産増の影響で、148tの増加となる見込みでしたが、合理化・原価低減活動による不良改善や歩留まり向上の効果で9t削減、その他、生産増による効率向上や生産関係会社が1社連結外となったことにより、138t減少しました。この結果、売上高原単位で14%の削減となりました。

▼ 温室効果ガス排出量推移(生産部門+間接部門)



▼ 廃棄物最終処分量推移(生産部門+間接部門)



※温室効果ガス排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の各燃料および電力の排出係数を毎年再確認し、算定しています。スコープ1は、事業者自らによる温室効果ガス直接排出、スコープ2は他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、スコープ3は、スコープ1、2を除いて、原料調達から生産、販売、廃棄までにおける間接排出のことを指します。電力は各国の情報提供が充実してきたことから2020年度より拠点ごとの排出係数を調査し算定しています。

スコープ3 (2022年度データ掲載予定)

<https://www.valqua.co.jp/social/environment/>

貢献するSDGs



# 安全衛生

## 10 労働安全衛生

心と体の健康管理

[https://www.valqua.co.jp/social/safety\\_health/](https://www.valqua.co.jp/social/safety_health/)

### 安全職場と心身の健康

#### ■ プロアクティブ人材の育成

安全で健康的な職場の実現に向けて能動的に行動する内部監査員、衛生推進者、また、体験型学習を通して安全衛生に対する意識を向上させリスクの認識を的確にできるリーダーの育成に取り組んでいます。

#### ■ 安全衛生推進体制の体系化と有効化

ステークホルダーの期待に応えるため、世界標準に準拠したシステムを機能させ、リスクの見え化と排除、同時に、メンタル・フィジカルケアによる従業員の心身の健康保持増進に努めています。

### 安全衛生推進活動

#### ■ バルカーグループ安全衛生の日

バルカーグループでは、5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、安全意識の高揚を図っています。また、7月の全国安全週間期間中にSHE(安全・衛生・環境)Weekを設定し、海外を含めたグループ全ての拠点で安全衛生環境活動強化のためのイベントを開催しています。

#### ■ 積極的な安全衛生推進活動

バルカーグループにおいてもビジネスのグローバル化が進む中、国・地域ごとに異なる法規制

▼ 災害発生件数



や習慣などに伴うリスクが顕在化してきました。こうした国・地域ごとに異なる法規制や習慣に合った活動をきめ細かく、かつ遅滞なく行うことで、グループ理念の根幹である「安全衛生は全てに優先」を実現できると確信しています。

衛生面では、健康経営の視点から従業員の心身の健康づくりにも注力し、安全・衛生の両面から健康的で明るい職場づくりや産業医による保健指導を積極的に推進しています。また、新型コロナウイルス蔓延防止策のガイドラインを発行し、各事業所での感染防止の取り組みを徹底しています。

▼ 安全衛生環境強化イベント



バルカー・エフエフティ SHE WEEK期間中に開催した安全衛生祈願祭



バルカーベトナム 運転歴の短い新入社員の実技訓練を構内で実施



外部安全体感研修受講 巻込まれ事故の模擬体験の様子

# サプライチェーンマネジメント



## 11 紛争鉱物等への対応

### CSR 調達の推進

#### ■ CSR調達ガイドライン

バルカーグループは、社会・環境・人権などに配慮した調達活動に取り組むべく、2016年に「CSR調達ガイドライン」を制定しました。企業理念「THE VALQUA WAY」と「CSRコンセプト」に基づき、「調達基本方針」として5つの方針を掲げています。サプライチェーン全体でのリスクを最小化し、健全な調達活動を推進します。

#### ■ CSR調達アンケートの実施

サプライチェーン全体でのCSR調達を推進する活動の一つとして、各サプライヤーにおけるCSR推進状況を確認するための自己評価アンケートを実施しています。

2020年度からは、新たな取り組みとしてコンプライアンス遵守の評価を厳格化するため、アンケートの設問を今までの20問から、コーポレート・ガバナンス、サプライチェーン、環境などの設

#### ▼ CSR調達アンケートの確認項目（2022年度から紛争鉱物の対象に「コバルト」「マイカ」を追加。）

項目	取り組み内容
CSR	●法令遵守・違法行為の予防 ●CSR推進 ●取引先への展開
コーポレート・ガバナンス	●内部統制 ●内部通報 ●適切な輸出入
公正取引	●腐敗（政治献金・寄付、贈賄等）防止 ●優越的地位の濫用防止 ●不適切な利益の供与や受領の防止
情報・セキュリティ	●知的財産の管理 ●個人情報や、顧客の機密情報の管理 ●コンピューターネットワークへの攻撃に対する防御
サプライチェーン	●法規制、社会的規範、業界規範および規格の遵守 ●紛争鉱物（紛争地域産のタンタル、すず、タングステン、金とその派生物、コバルト、マイカ）の使用
人権	●人権の尊重 ●差別の禁止
労働	●採用時の差別の禁止 ●従業員への平等な機会の提供 ●禁止事項の遵守 ●労働時間、休暇、有給休暇の公正な適用
環境	●法令等で指定された化学物質の管理 ●排水・汚泥・排気の管理 ●資源の持続可能で効率的な利用 ●温室効果ガスの排出量削減 ●グリーン調達および廃棄物削減
安全衛生	●安全で健康に働ける環境 ●作業者の安全 ●災害への備え ●災害・事故発生時の体制
BCP	●事業継続計画への取り組み

問を増やした30問に拡充し、さらに、調査対象をこれまで実施してきた主要なサプライヤー以外のサプライヤーまで範囲を広げたアンケート実施をしています。

今後、さらに活動を推進していくため、アンケートの内容を精査するとともに、サプライヤーに対する個別の支援などを通じてCSR調達の実現に向けた継続的な支援・協働への取り組みを行っていきます。

#### ■ 紛争鉱物<sup>※</sup>等への対応

バルカーグループは、紛争鉱物への対応等、人権リスクへの対応を企業の責務と捉えて、CSR調達ガイドラインに対応方針を定め、調達品の調査をしています。また、2022年度からは「人権デューデリジェンス」を意識した活動にするため、紛争鉱物に「コバルト」「マイカ」を追加した運用を開始しました。今後もサプライヤーと連携して、人権侵害に及ぼさない取り組みを強化していきます。

調達基本方針、  
バルカーグループ  
CSR調達ガイドライン  
<https://www.valqua.co.jp/social/csrprocurement/>

※紛争鉱物：紛争地域で人権侵害、不正などを行う武装グループの資金源となる鉱物

# 人材・人権



## 12 人材の多様性確保

### 職場環境づくり・各種制度

#### ■ 柔軟な働き方を提供し、社員のライフワークバランスを支援

バルカーでは、柔軟で働きやすい職場環境を目指し、2020年からリモートワーク制度を導入、フレックス勤務制度や1時間単位・半日単位の有給休暇取得制度、副業のための短日勤務制度など社員がそれぞれ求める働き方ができるような基盤づくりを積極的に推進しています。会社が社員一人ひとりのワークライフバランスを支援し、それぞれの仕事にやりがいを持ちながら、チャレンジし続けることのできる環境づくりを、これからも継続して取り組んでまいります。

柔軟な働き方を支援する制度

- 副業（短日勤務制度）
- リモートワーク制度（リモートワーク手当含む）
- 介護休業「連続取得期間は最長3年」
- 1時間単位の有給休暇取得制度
- 子どものバースデー休暇
- 育児のための有給特別休暇
- 育児短時間勤務「子どもが小学校3年生に達するまで」
- 育児休業「2歳6カ月到達する日まで」
- パパ育休制度
- フレックスタイム制度（コアタイム13:00～15:00）
- 介護短時間勤務
- キャリアリターン制度

（2023年6月1日現在）

#### ■ エンゲージメント

創業100周年のありたい企業像「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を掲げていますが、これを実現するには、「受け身から攻めの体質」「失敗を恐れずチャレンジする体質」への転換が必要だと考えています。そこで当社は、全従業員のエンゲージメントの向上を積極的に推進し、バルカーグループ全社を対象に2020年8月から毎年、エンゲージメント調査を実施しています。調査結果をもとに、社員一人ひとりの人格と個性を尊重し、対話を重視した風通しのよい職場づくりに向けた施策を各部門に合わせて実施しています。

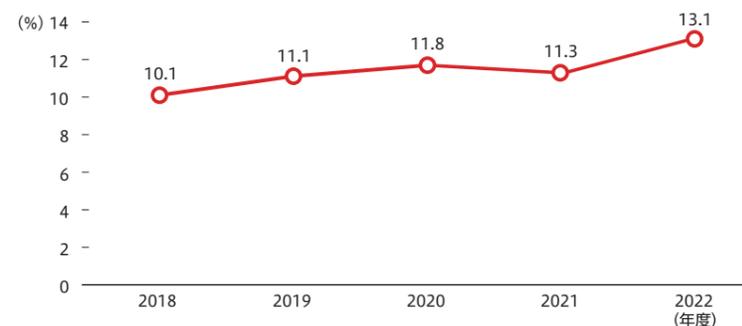
#### ■ 性別を問わず活躍できる環境づくり

性別に関係なく多様な視点を取り入れることで、さらなるイノベーションの推進を図ります。特に、女性のキャリア開発と成長を支援するため、女性管理職比率の目標を定め、海外グループ会社の経営層などで積極的な登用を行っています。

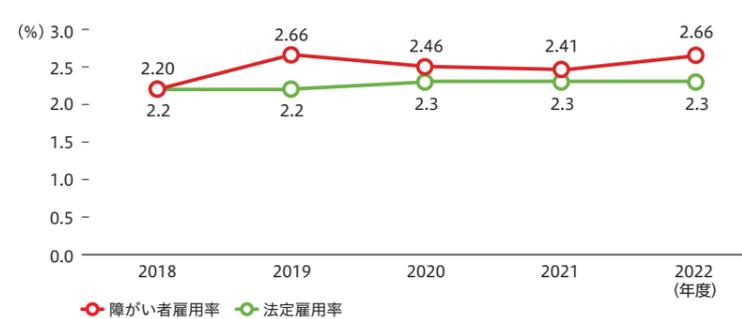
#### ■ 障がい者雇用の推進

地域との共生を目指しバルカーグループでは、地域の特別支援学校などから障がい者の企業実習を積極的に受け入れています。障がい者の方に働くことの楽しさや意義を伝えるとともに、入社後の職場定着と自立を支援しています。

▼ 女性管理職比率 目標：2020年度までに10% 2027年度までに15%



▼ 障がい者雇用率 目標：法定雇用率以上



## 13 人権の尊重(人権デューデリジェンス含む)

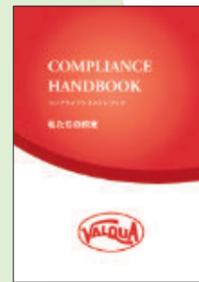
### 人権の尊重

バルカーグループでは、2017年3月に、国連グローバル・コンパクトも踏まえながら「バルカーグループ人権基本方針」を策定しました。この方針のもと、GRIスタンダードを参考にアセスメントシートを作成し、年1回の頻度でグループ各社などに調査を行い、グループ全体の人権基本方針の周知と理解度の確認、および人権に関する取り組み状況を確認しています。

この結果を分析し、各グループ会社が自主的に人権問題の把握や防止・対処ができるようにサポートしながら、人権に対するさらなる意識向上

とダイバーシティの推進を図ります。

バルカーグループではコンプライアンスハンドブックを展開し、グループ各社でも勉強会や外部トレーニングに参加するなど、人権意識を維持向上するための自主的な取り組みを行っています。



バルカーグループ  
コンプライアンスハンドブック

バルカーグループ人権基本方針

[https://www.valqua.co.jp/social/human\\_resources/](https://www.valqua.co.jp/social/human_resources/)

## 14 人材育成

### 人材育成

バルカーグループでは基本理念である「Value & Quality (価値の創造と品質の向上)」を実現するため、社員一人ひとりの強みを意識した人づくりに取り組んでいます。

ジョブローテーションやOJT、年間の目標管理に加え、「人材開発宣言」「人材開発方針」に基づき、様々な研修プログラムを提供しています。全社員を対象にした研修・自己啓発プログラムの他、グループコア人材に対しては各種の選抜研修を実施し、リーダーとしての人間力と変革力の醸成を行っています。個々の社員が自らの強みを最大限発揮し、「人類の豊かさ地球環境」に貢献していく人材の輩出に力を入れています。

#### ■ 通信教育等の自己啓発支援プログラムの充実

豊富な自己啓発プログラムによって、従業員の自律的な成長を支援しています。全コース全額補助の通信教育や、総合的なビジネススキルを学

べる動画学習、英語を中心とした語学学習や公開試験受験への支援など、各自の学習目標に応じた様々な選択を用意しています。

#### ■ 目標管理と人事評価の仕組み

バルカーグループの従業員の目標は、年度方針や部門ミッションをもとに部下と上司が話し合って設定します。人事評価は、部下の自己評価を参考に上司がコミュニケーションを取りながら決定し、課題や改善点を明確にして次に活かすなど、バルカーグループの持続的成長に向けた人材育成につなげています。

#### 求める人材像

- 企業理念「THE VALQUA WAY」に共感できる人
- グローバルな視点で判断や行動のできる人
- 学習と成長への強いこだわりを持ち、自ら考えながら、新たなことに挑み続けることができる人
- スピーディーな判断力や行動力を有し、時代の変化・変革を先取りして果敢にチャレンジできる人

#### 多種多様な研修プログラム

1. グローバル化に向けた人材育成
2. グループ経営を担う人材の育成
3. 階層別研修
4. 職種別研修
5. 自己啓発
6. OJT

## 顧客満足

貢献するSDGs



## 15 品質の向上と顧客の安全・安心

### 品質保証体制と方針

バルカーグループでは、「グループ品質保証委員会」を組織し、グループ全体を統括するグローバル体制を構築しています。品質保証部を中心として、国内外の生産関係会社や販売関係会社を管轄する各事業本部や生産調達本部など品質に関わる各部門責任者で構成し、その決定事項の具体的展開を指示すると同時に日々の実行に責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

また、「品質方針」に基づいて、組織ならびに従業員一人ひとりが具体的目標を掲げ、品質向上活動に取り組んでいます。その上で、関連法規制を遵守、お客さまの求めに合致した品質を担保し、安全な製品とサービスを提供しています。

### 顧客の安全・安心のためのサービスの開発と普及を推進

バルカーグループでは、シール製品の製造販売にとどまらず、お客さまの要望に合わせてシールトレーニングを進化させ、プラント事故の一因でもあるシール締結に関する漏えいトラブルを減らすための技能者育成支援に取り組んでいます。

また、これまで培ってきた独創的技術とIoT等のスマート技術を融合させたシールエンジニアリングサービスを推進しています。

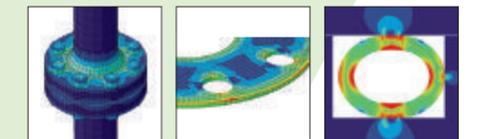
プラントの保安技術高度化ニーズに応える形で各種サービスの開発、展開を加速させて、全てのお客さまの安全・安心に貢献していきます。

### 評価技術

シール製品の使用環境は多様であり、全てのお客さまを対象に評価・検証を行うことは、現実的に困難でした。バルカーグループでは、こうした課題に対して、FEA(有限要素解析)を用いて使用環境をコンピューター上で再現・検証する次世代評価技術の開発に取り組んでいます。

この取り組みにより、これまで評価が困難であった大口径装置、高温や高圧条件での漏えいや破壊などの検証および寿命の予測が可能となりました。他にも、製品設計における形状や材料の多種多様な組み合わせの効率的な評価にもFEAを用いており、設計のスクリーニングとして効果的です。

今後もこの技術開発に積極的に取り組み、全てのお客さまの安全・安心に貢献していきます。



三次元解析

#### ■ シール製品検索ウェブサイト『Seal Quick Searcher』

製品選定に悩むお客さまの要望にお応えし、選定ミスによるトラブルを防止するため、多様な切り口での製品検索サイトを開設しています。流体・温度・圧力などの使用環境、キーワード、産業界などから当社推奨製品を検索できるサービスや、取り扱いに必要な締め付け力の自動計算サービスなどによって、今すぐ最適な製品を選定したい、必要な情報だけを用いて技術資料を作成したいというお客さまの個別課題をリアルタイムに解決。今後も本サイトの充実を図り、幅広い視点でお客さまの期待に応えていきます。

品質方針、  
品質マネジメントシステム

[https://www.valqua.co.jp/social/safety\\_quality/](https://www.valqua.co.jp/social/safety_quality/)

現代ガスケット概論

ガスケットとボルト締め、フランジ継手の技術的基礎をわかりやすく説明した業界初の「ガスケット解説書」

<https://www.valqua.co.jp/technical/gasket-introduction/>

バルカー技術誌

「バルカーテクノロジーニュース」

<https://www.valqua.co.jp/tech/technical/>



※「Seal Quick Searcher」は当社ホームページからご利用いただけます。

<http://www.seal.valqua.co.jp/seal/>

## コミュニティ

貢献するSDGs



# 16 スポーツ・文化・芸術の振興 地域社会との共生

## スポーツ振興支援

### ■「ボールルームダンス」振興への新たな取り組み

バルカーグループでは長年にわたり、人々の健康や生活を豊かにする「スポーツ」の振興支援に取り組んでいます。2014年からは、年齢や障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめる生涯スポーツである「ボールルームダンス」の普及・振興を支援しています。

2022年度は新型コロナウイルス感染対策が段階的に緩和されたことにより、延期やリモート開催されていた各大会の有人開催が相次ぎました。そこで、コロナ禍を乗り越えた選手や関係者へのさらなる応援と後押しのため、視覚障がい者の全国大会「全日本ブラインドダンス選手権大会」や「アジアオープンダンス選手権大会」などのさまざまな大会支援を行いました。

また、事業のみならずダンススポーツの支援もグローバルに展開していくため、「2023アジアダンスツアータイオープン」「2023コリアオープン国際ダンス選手権」への支援を行いました。隣国同士のダンスコミュニティが互いに助け合い、選手のため、観客のためにダンススポーツに真摯に取り組み、社会への貢献に繋がることを希望します。

また、毎年11月に開催され当社グループが特別協賛している国内最高峰の競技会「バルカーカップ」は、プロ・アマ問わず選手が自由に踊れる場の提供と、コンプライアンス順守など公平性の向上を大きな命題に掲げた「バルカーカップ ジャパンオープンダンス選手権」として生まれ変わり、大会は選手たちの熱戦に沸きました。



「バルカーカップ ジャパンオープンダンス選手権」の賞金（アマチュアは報奨金）が、選手の世界への飛躍の後押しとなることを期待します



「バルカーカップ」では、ファンへのおもてなしプログラムの一つとして、バルカーグループ提供のTV番組「Dの旋律」にちなんだスペシャルショーを実施しました



「アジアオープン ブラインドダンス選手権大会」には、視覚障がい者と健常者ペアが多数出場しました

### 社会貢献団体の活動支援、各種寄付活動について

[https://www.valqua.co.jp/social/action\\_program/](https://www.valqua.co.jp/social/action_program/)

## 地域社会との共生

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」の行動指針の「地域社会との共生」に基づき、世界中の人々とより豊かな未来を築いていくために、私たちに何ができるのかを常に考え、毎年「地域社会に対する感謝の日」を設け、地域社会に根差したボランティア活動を実施しています。

世界中のグループ会社の各事業所・営業拠点・工場の44カ所の従業員とその家族が参加しています。

2022年度は、ウィズコロナ下での活動ということで、各拠点で工夫を凝らしながら、募金・寄付（寄贈）活動を主体に清掃活動や花壇の花植え活動などを行いました。

### ■バルカーグループ

当社グループは、日本ダンス協会とともに募金を呼びかけ、2022年5月にウクライナダンス協会（All Ukrainian Council on Dance Sport、以下AUCDS）に226万円の寄付を行いました。AUCDSは、ウクライナの全地域にある350以上のダンスクラブを統合している団体で、子供たちの育成にも力を入れています。復興、及び活動支援の一助として貰いたいと実施した寄付に対し、AUCDSのIgor Soronovych会長より、「このお金はすべてウクライナの社交ダンス競技会の再建のために使用します」との感謝の礼状が届きました。

寄付金による大きなご協力をいただき、貴団体メンバー全員に感謝したいと思います。  
16,457.97 EURO を受け取りました。私は AUCDS の会長として、このお金はすべてウクライナの社交ダンス競技会の再建のために使用いたします！

この大変な時代に私達をサポートし、助けてくれて本当にありがとうございます。  
私たちは、将来、皆様と協力しあっていければと思っています。

All Ukrainian Council on Dance Sport Igor Soronovych

▲手紙より一部抜粋

### ■奈良事業所（バルカー/バルカー シールソリューションズ）

テクノパーク・なら工業団地運営協議会のメンバーとして、他の企業と協力して地域の見守り活動を行っています。近隣小学校の下校時間に合わせて、登下校ルートの防犯パトロールを毎月継続しています。



### ■大崎事業所

2022年2月、サステナビリティ活動の一環として、品川区立品川学園の「企業説明会体験<sup>※</sup>」に参加し、事業概要や当社製品などの説明を行いました。質疑応答のコーナーでは、生徒から、当社や働くことへの質問が多数あるなど大変関心を持っていただくことができました。

※企業説明会体験：生産の喜びや働くことの意義や尊厳を学び、将来に向けた望ましい勤労観や職業観をもつことを目的とする、品川学園の第7学年（中学1年）の学年行事。



▲生徒たちは、実際にサンプルに触ってみたり、身近なものにも使われているシール材の説明に興味津々でした

### ■バルカーアメリカ

バルカーアメリカでは、2022年10月にフードバンクでの食材仕分け作業のボランティア活動を行いました。

缶詰のラベルシール貼りや箱詰め、洋ナシの選別と箱詰めは肉体的に疲労度の高い作業でしたが、終了後には充実感や達成感を感じたとの声が上がりました。



▲傷みやカビのない洋ナシを選別しながら箱に入れます ▲6,200ポンド（2,812kg）の缶詰を仕上げました



▲17,000ポンド（7,711kg）もの洋ナシを仕分けすることができました

# バルカーグループ ネットワーク



## 国内ネットワーク

**本社**  
〒141-6024 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower 24F  
TEL (03) 5434-7370 / FAX (03) 5436-0560

### 〈営業部門〉

- **H & S 事業本部**
- ① 第1ブロック (北海道)
  - ② 第2ブロック (東北)
  - ③ 第3ブロック (北関東・信越)
  - ④ 第4ブロック (南関東)
  - ⑤ 第5ブロック (東日本カスタマーサービス)
  - ⑥ 第6ブロック (中部)
  - ⑦ 第7ブロック (関西)
  - ⑧ 第8ブロック (西日本カスタマーサービス)
  - ⑨ 第9ブロック (北陸・中四国)
  - ⑩ 第10ブロック (中国)
  - ⑪ 第11ブロック (九州)

● **高機能樹脂・製品本部**  
素材・フィルムグループ 加工品グループ ライニンググループ 調達グループ  
彦根営業所 熊本営業所

● **高機能シール本部**  
営業部 (東京) 営業部 (大阪) 営業部 (熊本)

● **海外統括本部**  
貿易チーム

▲ **製造・研究開発・人材開発拠点**  
**M・R・Tセンター**  
〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘2-2-2  
TEL (042) 798-6770 / FAX (042) 798-1040

◆ **販売・製造拠点**  
株式会社バルカー・エフエフティ (東京、長崎)

◆ **販売拠点**  
株式会社バルカーエーエス (茨城、千葉)  
株式会社バルカーテクノ (東京、大阪、広島)

▼ **研究開発拠点**  
株式会社バルカー (東京、奈良)

◆ **製造拠点**  
株式会社バルカー シールソリューションズ (奈良) 九州バルカー株式会社 (福岡)  
株式会社バルカーメタルテクノロジー (愛知)



## 海外ネットワーク

### 東アジア

① VALQUA SEAL PRODUCTS (SHANGHAI) CO., LTD.  
② VALQUA (SHANGHAI) TRADING CO., LTD.  
Location: Shanghai

③ VALQUA KOREA CO., LTD.  
Location: Seoul  
・ULSAN OFFICE  
Location: Ulsan  
・PYEONGTAEK FACTORY  
・APPLIED R&D INSTITUTE  
Location: Gyeonggi-do

④ TAIWAN VALQUA ENGINEERING INTERNATIONAL, LTD.  
・STSP Branch  
Location: Kaohsiung City  
・HSINCHU OFFICE  
Location: Hsinchu City

### アセアン

⑤ VALQUA VIETNAM CO., LTD.  
・HAI DUONG FACTORY  
Location: Hai Duong Province  
・HANOI BRANCH  
Location: Hanoi  
・Ho Chi Minh Sales Office  
Location: Ho Chi Minh

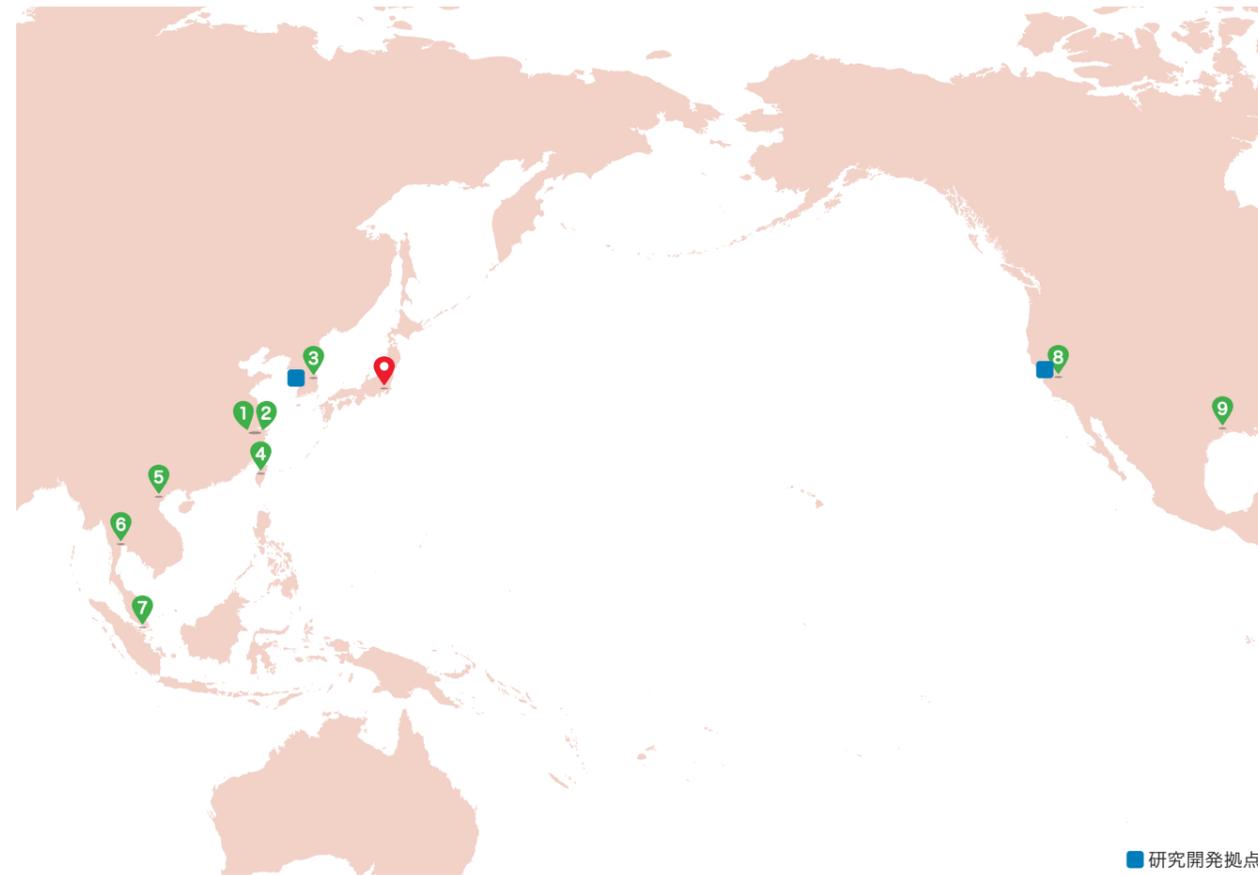
⑥ VALQUA INDUSTRIES (THAILAND), LTD.  
Location: Samutprakarn  
・RAYONG BRANCH  
Location: Rayong

⑦ VALQUA INDUSTRIES SINGAPORE PTE. LTD.  
Location: Singapore

### 北米

⑧ VALQUA AMERICA, INC.  
・ADVANCED SEAL TECHNOLOGY INSTITUTE  
Location: Sunnyvale, CA  
⑨ VALQUA NGC, INC.  
Location: Houston, TX

① VALQUA SEAL PRODUCTS (SHANGHAI) CO., LTD.  
金属ペロース製品等の製造、中国市場へのふっ素樹脂ライニングタンクの製造



■ 研究開発拠点

## 会社概要

**株式会社バルカー** 本社：〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階

創業：1927年1月21日 / 設立：1932年4月8日 / 資本金：13,957百万円

上場証券取引所：東京証券取引所プライム市場 / 従業員数：417名 (グループでは1,682名、2023年3月31日現在)

事業内容：産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴム等各種素材製品を設計、製造、加工および販売。ソフトウェアおよび情報機器の開発および販売、関連する電子商取引等インターネットを利用した各種サービスの提供、コンサルティング、エンジニアリング、その他技術・ノウハウに関する事業